

# 令和3年度(2021年度)調査研究事業報告書

## 生涯学習事業に係る県内の現状 及び県内外の先進事例



地域の人づくり講座(津奈木教室)  
～公民館が元気になると まちが元気になる～  
地域のよさを生かした企画を体験する様子



地域の人づくり講座(八代教室)  
～あなたの力が、やつしろの子供・地域を育てます～  
各校区の地域学校協働活動について情報交換する様子

令和4年(2022年)3月  
熊本県教育委員会

## 目次

はじめに	1
第1章 調査研究の概要	2
第2章 市町村の生涯学習事業の現状及び考察	3～20
第3章 県と市町村の連携事業	
1節「地域の人づくり講座」3年次経過報告	21～36
【事例1】公民館を中心に活動する人材を育成することを目的とした講座（長洲町）	
【事例2】地域防災のリーダーとして活動する人材を育成することを目的とした講座（菊池市）	
【事例3】地域リーダーの育成を目的とした講座（宇城市）	
【事例4】自治公民館の活性化を目的とした講座（津奈木町）	
2節「地域の人づくり講座」2年次経過報告	37～45
【事例5】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（荒尾市）	
【事例6】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（八代市）	
【事例7】地域学校協働活動推進員の人材育成を目的とした講座（玉名市）	
3節「地域の人づくり講座」1年次経過報告	46～49
【事例8】公民館関係者等の人材育成を目的とした講座（天草市）	
【事例9】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（人吉・球磨10市町村）	
第4章 生涯学習コーディネーター養成講座	50～60
【事例1-1】「チャレンジから生まれる地域づくり ～やりたいことを形にするコツを伝授～」	
【事例1-2】「子ども地域も元気にする地域学校協働活動 ～あなたが地域のキーパーソン～」	
【事例2】「デジタルデバイドの解消のために私たちにできること ～今、求められるICT活用講座の企画と運営方法～」	
【事例3】「あなたのまちが活性化！ ～ひと・モノ・コトをつなぎ、生かす仕組みづくり～」	
第5章 先進地事例紹介	
【事例】「オンライン公民館熊本 ～ともに学び合い、つながり合う場～」	61～64
〔資料〕	
市町村対象アンケート調査票	65～69

## はじめに

本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って、新しい生活様式の徹底が継続される一年となりました。このことにより、各自治体におかれましては、生涯学習・社会教育を推進する上で、事業及び講座等が予定どおりに実施できないことも多くあったことと思います。

しかしながら、事業実施における感染防止対策の徹底、ICT活用によるオンライン講座の開催等、新しい方法を模索しつつ、学習機会の提供・場の工夫を継続され、各地域で住民の学びを止めないために御努力されましたことに対して、深く感謝申し上げます。

令和3年3月に策定された「第3期くまもと夢への架け橋教育プラン」の生涯学習推進の取組事項として、「学習機会と学習成果活用の充実」が位置づけられています。この中では、生涯のあらゆる場面において行う学習に対して、地域課題や県民の学習ニーズに応じた学習機会、学習情報の提供に努め、さらに、学習した成果を生かして、学校、地域で地域課題の解決やまちづくりにつながる活動を推進することが求められています。

そこで、今年度、本県では、県と市町村の連携事業である「地域の人づくり講座」をはじめ、生涯学習に携わる人材の資質・能力を高めるとともに、様々な関係機関や団体とのネットワークづくりを目的とした「生涯学習コーディネーター養成講座」、広く県民一般の方への学習機会の提供のための「くまもと県民カレッジ主催講座」等、様々な講座を実施して参りました。

本調査研究報告書では、市町村の生涯学習に係る現状をはじめ、県と市町村の連携事業（地域の人づくり講座）、県内外におけるまちづくり・人づくりの先進事例、コロナ禍における新しい取組（オンライン公民館）等についてまとめました。

本調査研究報告書が、各市町村等において活用され、生涯学習・社会教育に係る取組が尚一層充実するための一助となれば幸いです。

最後に、調査に御協力いただきました市町村教育委員会及び県内外関係者の皆様方から感謝申し上げます。

令和4年（2022年）3月

熊本県教育庁市町村教育局社会教育課長

須惠 勝幸

## 第1章 調査研究の概要

### 1 調査の目的

#### (1) 市町村支援

市町村における学習機会提供事業の充実等、生涯学習振興の支援のため、地域課題解決に向けた学習プログラムの開発、コロナ禍・災害等に対応した取組の工夫及び県内外の先進事例の情報収集を行い、市町村教育委員会をはじめとする関係機関に提供するとともに、次年度の事業に活用する。

#### (2) 市町村基礎情報収集

生涯学習推進及び社会教育行政に必要な基本的情報を収集し、社会教育課事業の基礎資料とする。

### 2 調査の対象

県内全市町村教育委員会（社会教育・生涯学習担当課：45市町村）、熊本市公立公民館（19館）

### 3 調査の実施期日

令和3年（2021年）11月19日～令和3年（2021年）12月17日

### 4 調査内容及び方法

#### (1) 県内市町村教育委員会、熊本市公立公民館に、次の点についてアンケートを依頼

- 主催事業について
- 学習成果活用を目的とした事業について
- 生涯学習全般について

#### (2) 人づくり、地域づくりを行っている県内外の公民館等に、取組の紹介を依頼

- 沖縄県NPO法人地域サポートわかさ 若狭公民館
- 静岡県富士宮市立柚野公民館
- 認定NPO法人カタリバ
- 熊本大学大学院自然科学教育学部
- CPDI（コミュニケーションプログラムデザイン研究所）
- NPO法人教育支援プロジェクト・マスターズ熊本

### 5 県内市町村・熊本市公立公民館調査回収率

対 象	依頼市町村数	回収市町村数	回収率 (%)
市（教育委員会）	14	14	100
町（教育委員会）	23	23	100
村（教育委員会）	8	8	100
熊本市公立公民館	19	19	100
全 体	64	64	100



## 第2章 市町村の生涯学習事業の現状

市町村の生涯学習に関する現状を把握するために、住民を対象とした講座内容や講座の実施回数、講座終了後の評価等について県内各市町村へアンケート調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおりである。(数字は単位記載のものを除き市町村数)

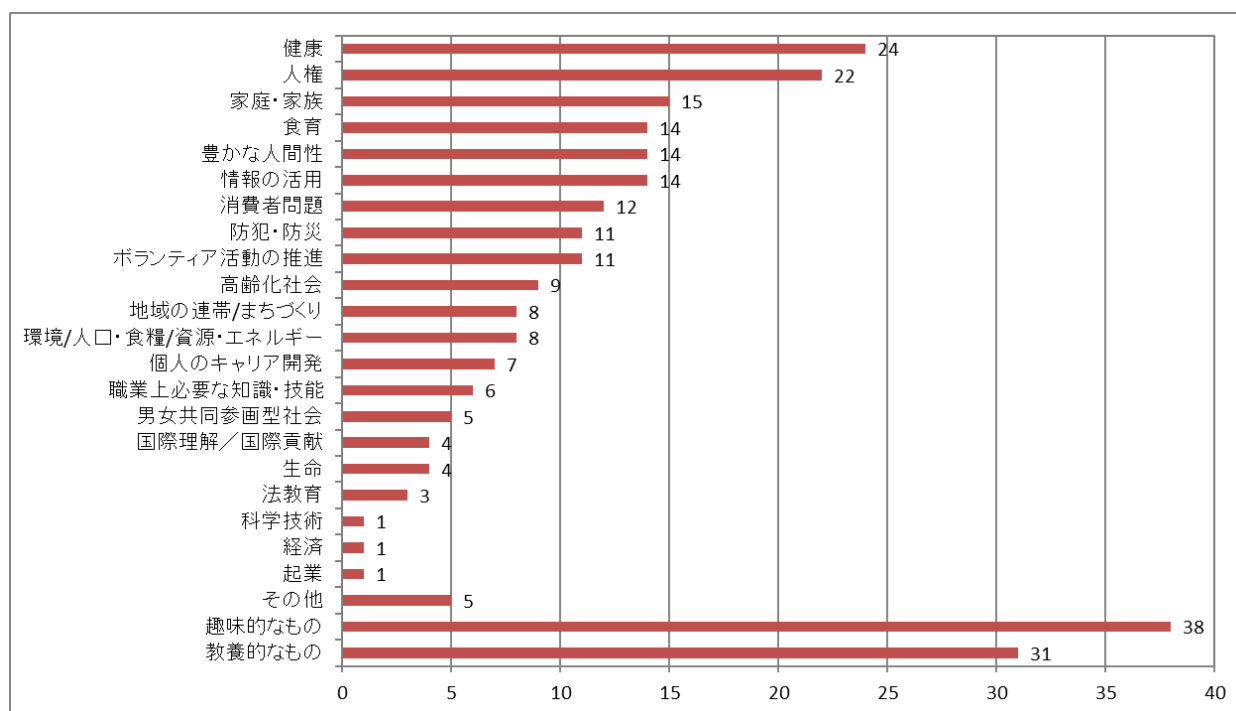
問1 本年度、貴市町村の教育委員会（公民館等も含む）主催で、生涯学習に関する講座や講演会を実施しましたか。（予定も含む）

【表1：各市町村における講座の実施の有無】

	H31(令和元)	令和2	令和3
実施した	45	36	43
実施していない	0	9	2

本年度も、新型コロナウイルス感染拡大の状況が続いていたが、多くの市町村が感染防止対策を講じた上で、講座を実施している。

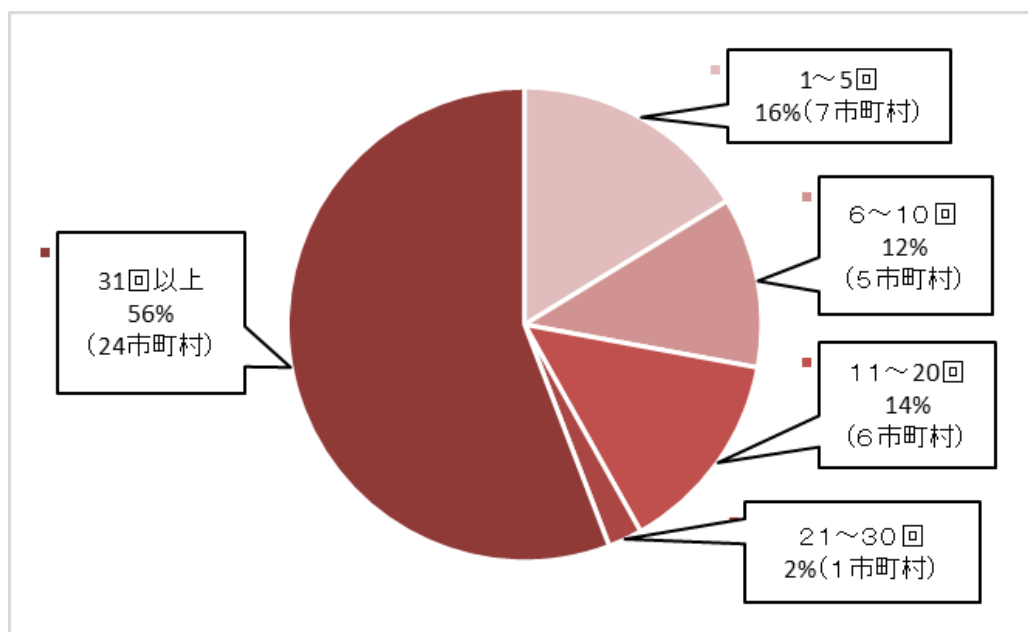
問2(1) 本年度実施した(予定)講座や講演会の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕



学習領域は、「健康」が一番多く、次いで「人権」「家庭・家族」「食育」「豊かな人間性」の順である。「人権」については、昨年度15市町村で実施であったが、本年度は22市町村で実施されている。また、昨年度に比べ、「情報の活用」「消費者問題」「ボランティア活動の推進」を実施した市町村が増加している。

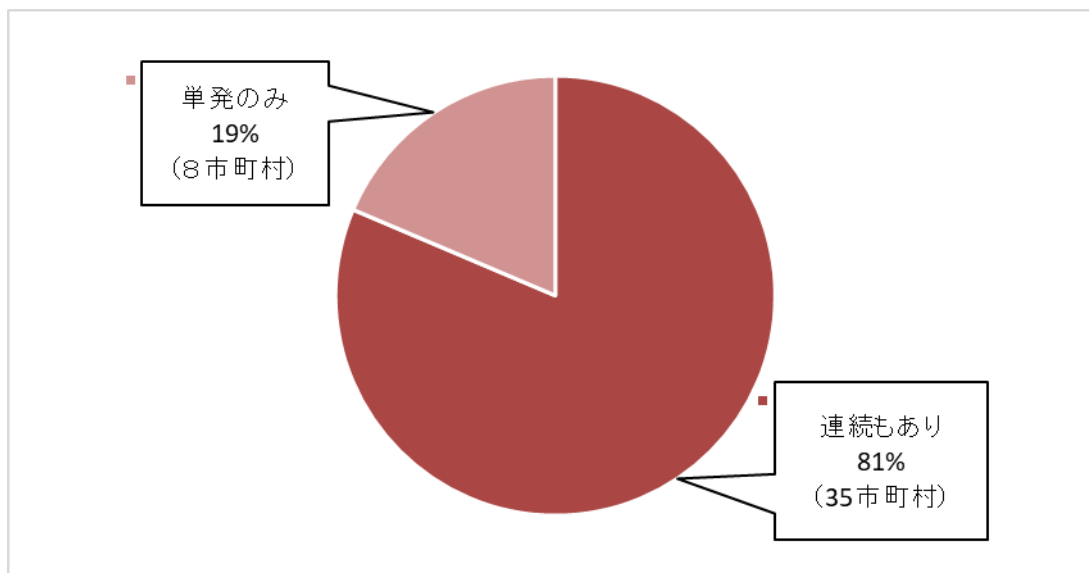
その他の領域としては、「地域の伝統」「地域の農業」など地域の特性に応じた講座が実施されている。

(2) (1) の講座等の合計実施回数を選んでください。(予定も含む)



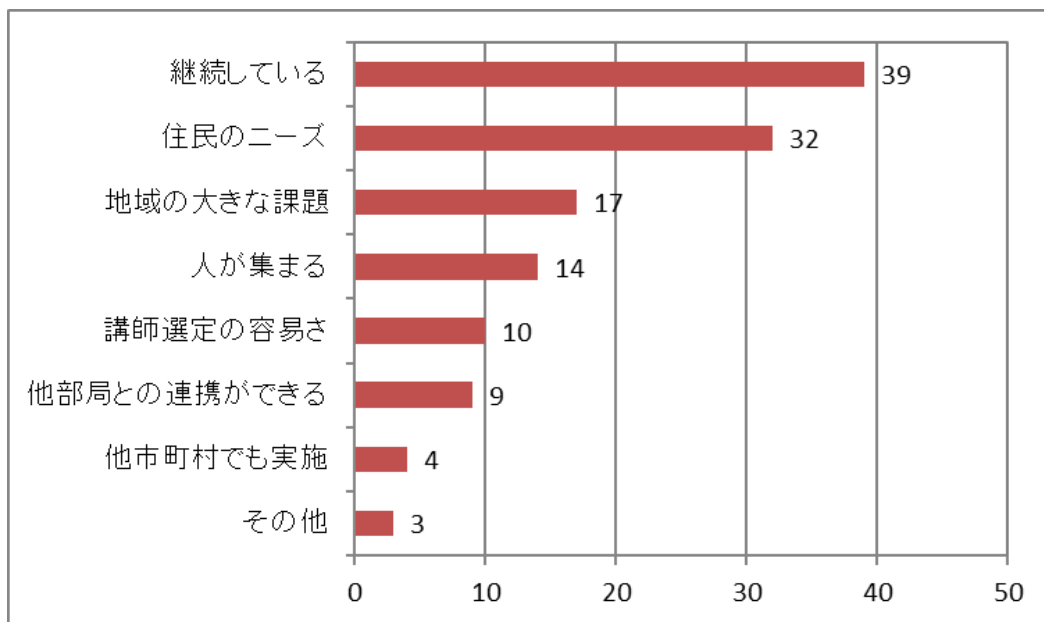
年間実施回数は、「31回以上」が24市町村(56%)と一番多く、次いで「1～5回」、「11回～20回」、「6～10回」、「21回～30回」の順である。昨年度と比べると「6～10回」は4%増、「31回以上」は2%減、「21回～30回」は1%減、「11～20回」3%減、「1回～5回」は2%増であるが、実施市町村自体が昨年度より7市町村増えている。

(3) (1) の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。



実施形態は、「連続した講座」が35市町村(81%)、「単発のみの講座」が8市町村(19%)である。昨年度と比較すると、「単発のみの講座」が13%増加しているが、実施市町村自体が昨年度より7市町村増えている。

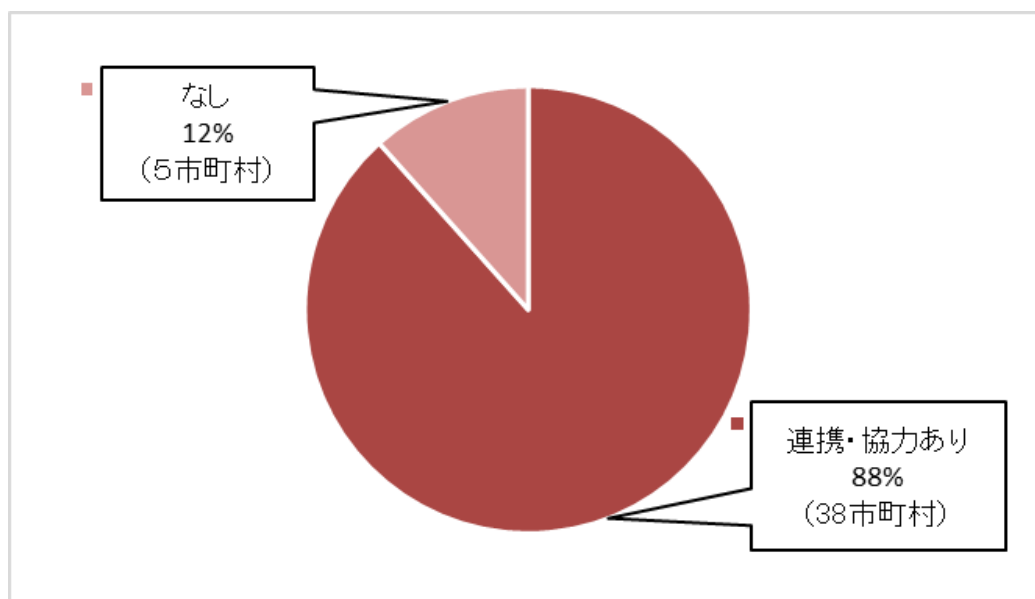
(4) (1) の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕



学習領域選定の理由は、「継続しているから」「住民のニーズが高いから」「地域の大きな課題だから」「人が集まるから」の順である。昨年度に比べ「住民のニーズが高いから」が5市町村増加している。

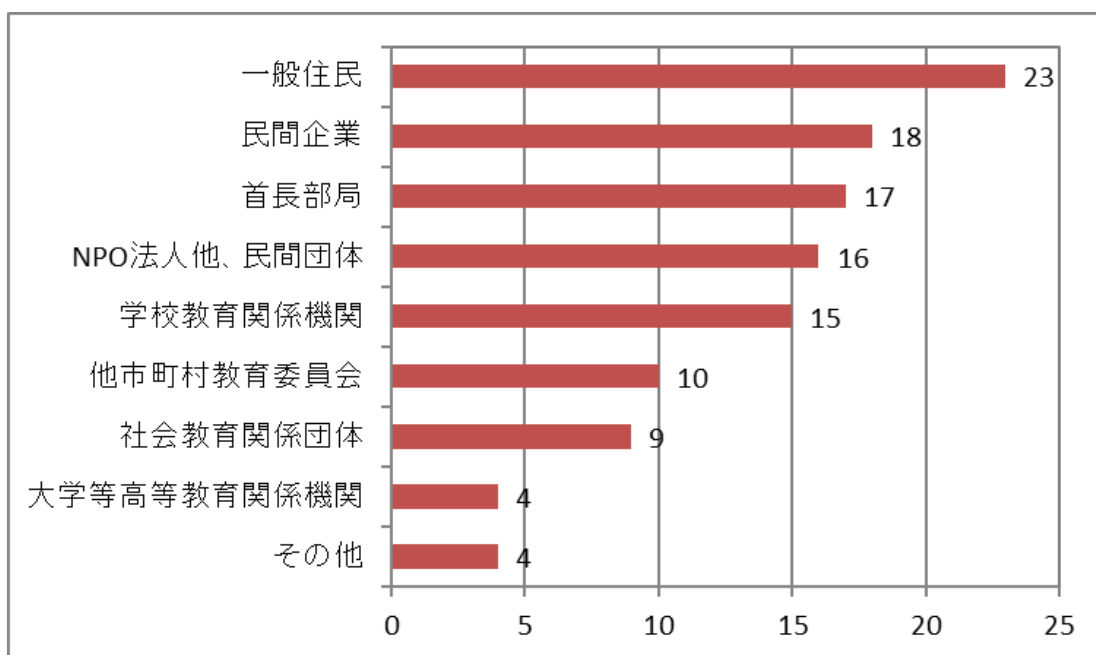
その他の理由としては、「学校からの依頼」「コロナ禍の需要」「地域の特性」等が挙げられている。

(5) (1) の講座を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関（構成員を含む）がありますか。



「連携・協力」を行った市町村は、38市町村（88%）であった。昨年度比で2%増加した。連携・協力を進めている市町村が増えていることがわかる。

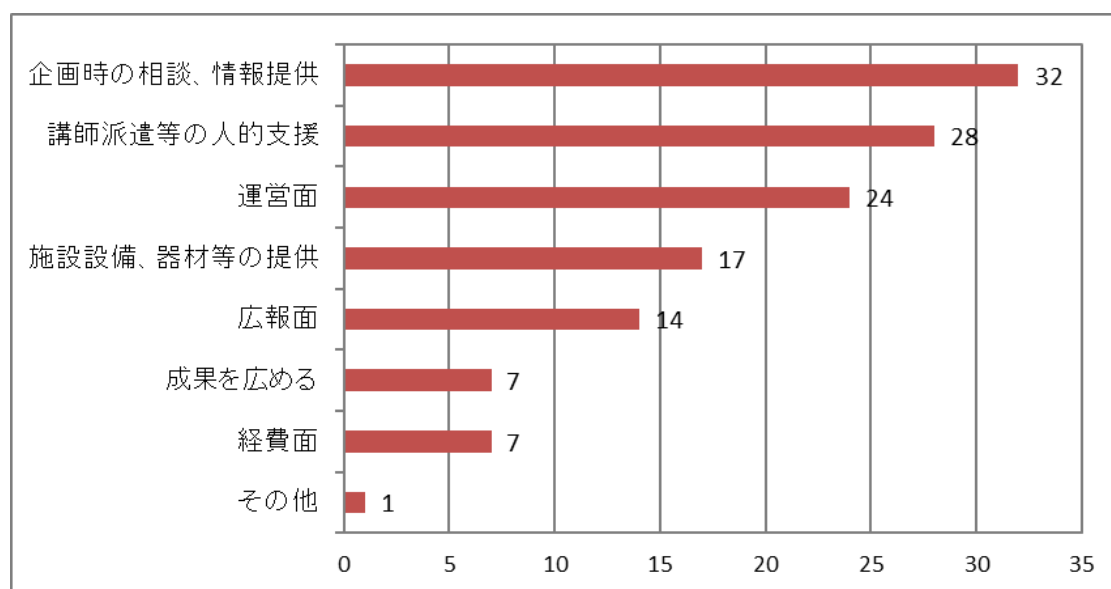
また、連携先は、どのような機関ですか。〔複数回答可〕



講座実施の連携先としては、「一般住民」、「民間企業」「首長部局」「NPO法人他、民間団体」が上位である。昨年度は、5位であった「民間企業」が6市町村増で、2位に上昇している。多くの機関と連携、協力している講座が実施されていることがわかる。

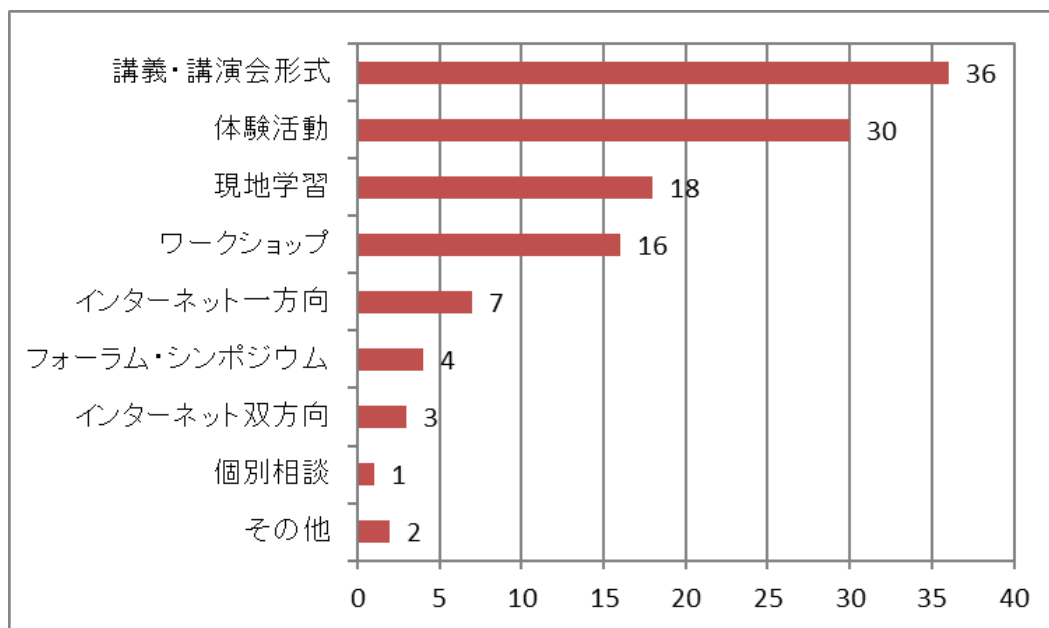
その他の連携先としては、「『親の学び』プログラムトレーナー」「保育ソーシャルワーカー」「県教育委員会」などが挙げられている。

(6) (5) の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕



連携内容や場面については、「企画時の相談、情報提供」「講師派遣等の人的支援」「運営面」が上位である。企画の段階から関係機関と連携している市町村が多いことがわかる。

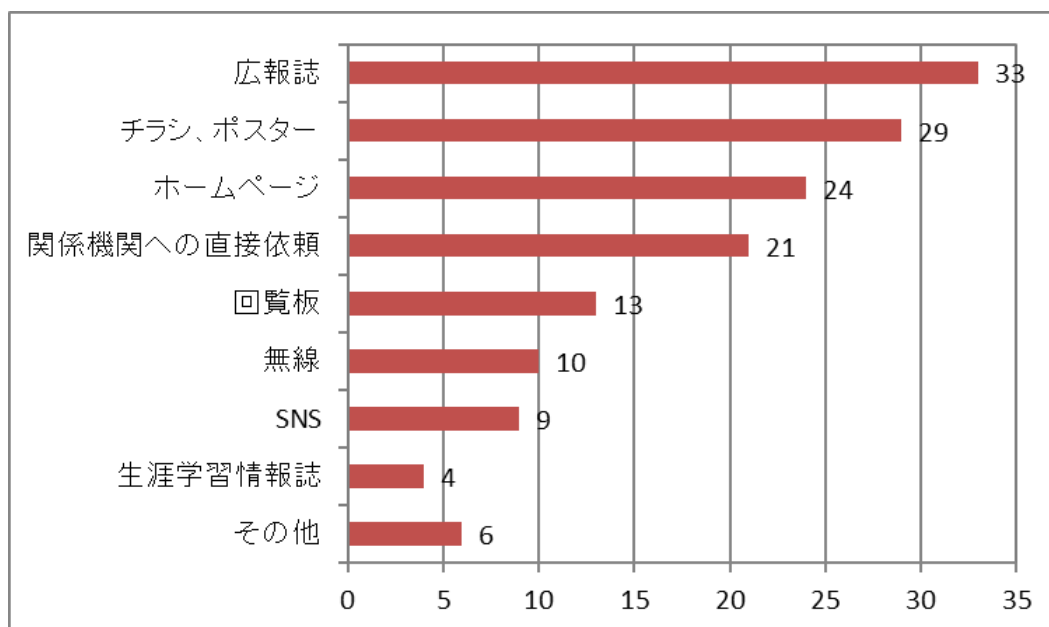
(7) (1) の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕



学習形態は、「講義・講演会形式」「体験活動」「現地学習」の順である。昨年度と比較すると、「体験活動」「現地学習」「ワークショップ」が増加傾向にある。「インターネット」の活用についても2市町村増加している。

その他としては、「ケーブルテレビによる講話」「ライブ授業」などが挙げられている。

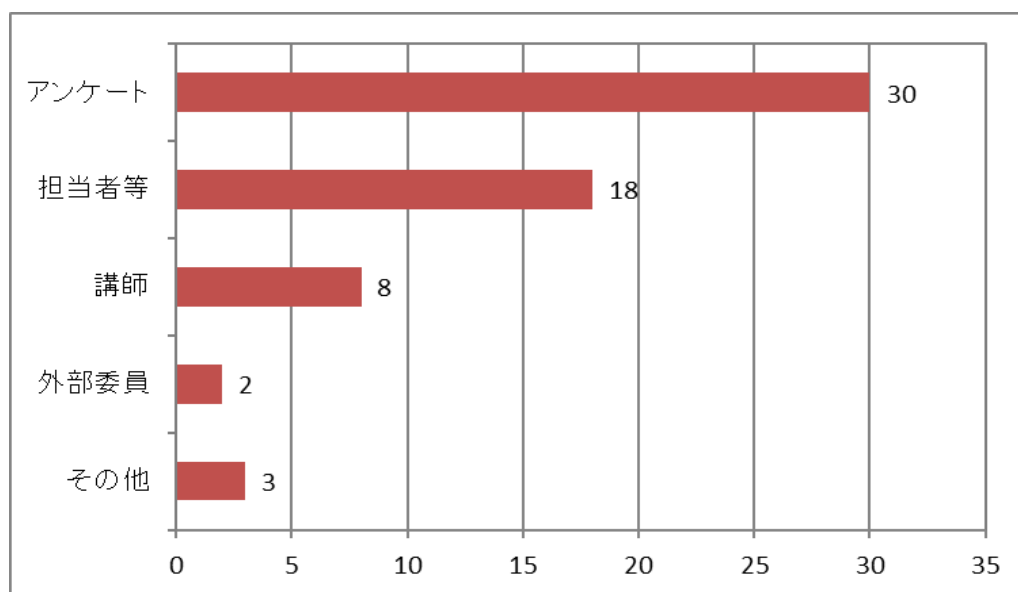
(8) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕



講座の広報手段は、「広報誌掲載」「チラシ、ポスター配布」「ホームページ掲載」「関係機関への直接依頼」が多い。昨年度に比べ「SNSの活用」が1市町村増加している。

その他の方法としては、「町内放送」「ラジオ」「全戸配布」等の手段が挙げられている。

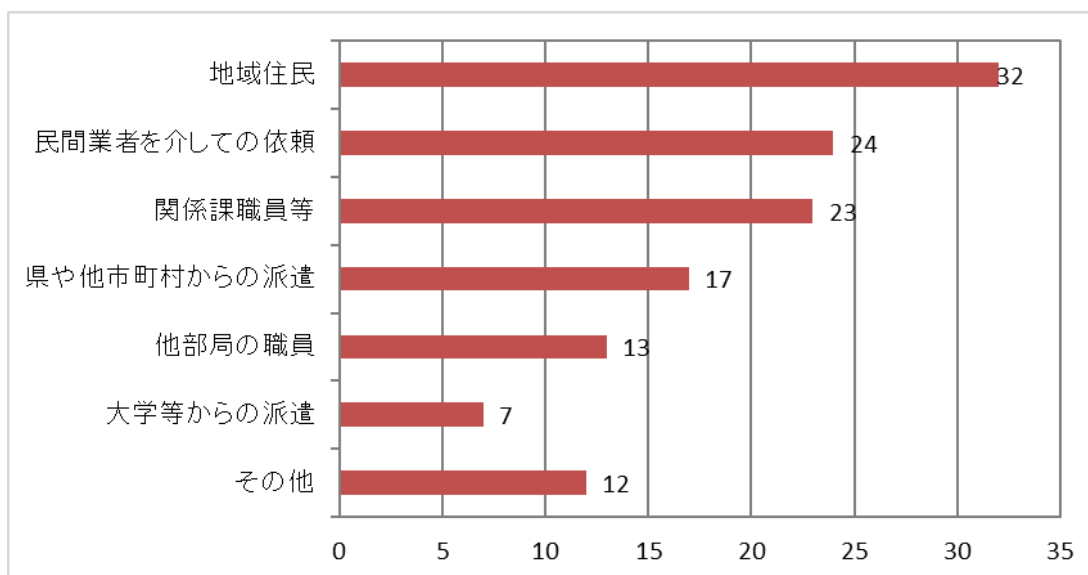
(9) 講座評価をどのように行っていますか。〔複数回答可〕



講座の評価方法については、昨年同様、「アンケート」による評価が最も多い。また、複数の方法で講座評価を実施する市町村が多い。

その他としては、「中学生のレポートを活用」「聞き取り」等が挙げられている。

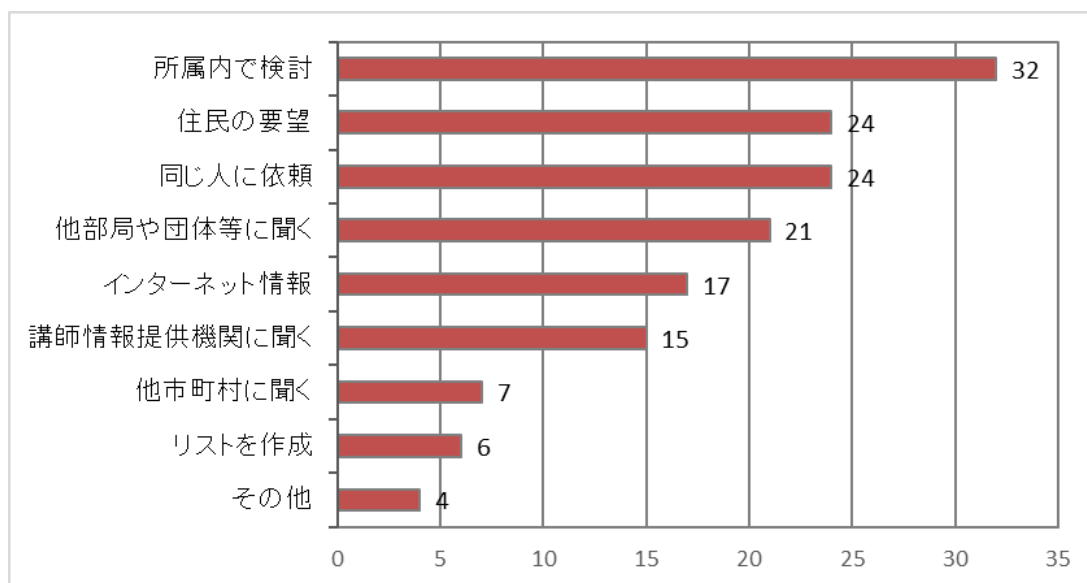
(10) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕



講座を務めた講師は、「地域住民」「民間業者を介しての依頼」「関係課職員等」の順である。昨年度と比べ「民間業者を介しての依頼」が9市町村増加している。

その他としては、「NPO法人や一般社団法人」「生涯学習指導者名簿登録者」「親の学びプログラムトレーナー」「地域出身者」「ALT」などが挙げられており、多様な連携が図られている。

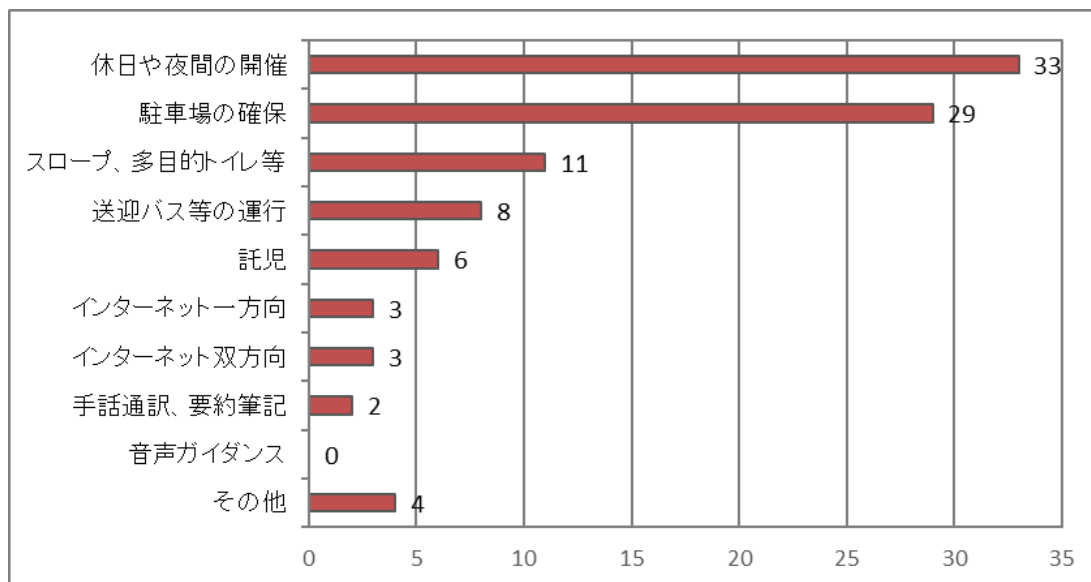
(11) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕



講師の情報源は、昨年同様「所属内で検討」「住民の要望」「同じ人に依頼」「他部局や団体等に聞く」の順である。

その他としては「担当者や社会教育主事のネットワーク」「広報誌やメディアで気になった方」等が挙げられている。

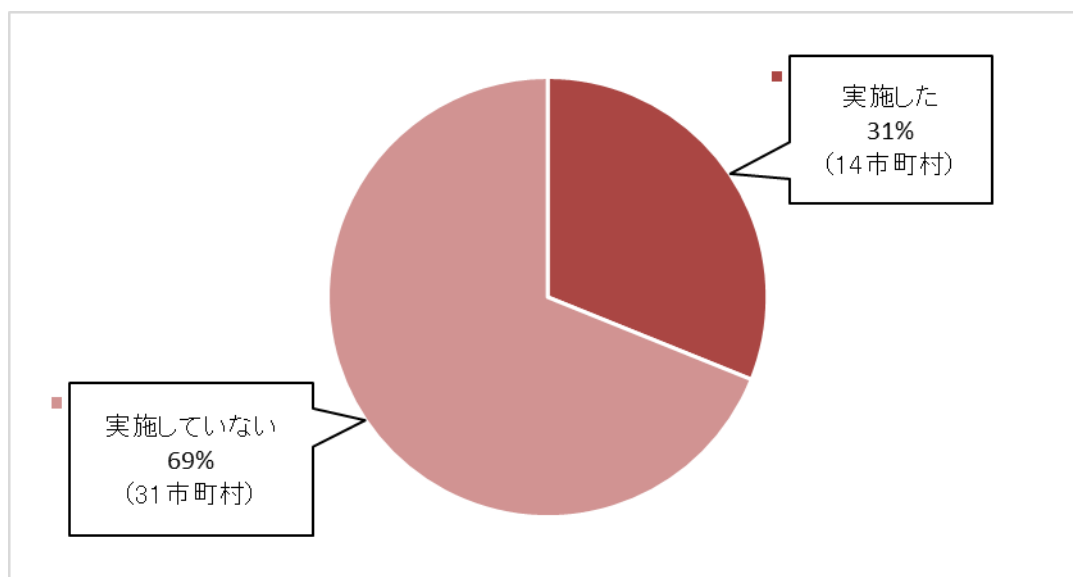
(12) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕



住民が参加しやすいように、「休日や夜間の開催」「駐車場の確保」「スロープ、多目的トイレ等」などの支援が行われている。

その他としては、「市内循環バスの運行に合わせた時間設定」「夏季休暇中の実施」「ケーブルテレビによる放送」「車椅子の常備」「筆談」等が挙げられている。

問3 学習成果活用を視野に入れた講座（人材育成や仲間づくり、仕組みづくり等）を実施しましたか。（予定も含む）



学習成果活用を視野に入れた講座を「実施した」市町村の割合は、14市町村（31%）である。昨年度と比較すると2%減少している。

次の表に示すのは、学習成果活用を視野に入れた講座の具体例である。（回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。）

市町村等	講座名	内 容
八代市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
人吉市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
荒尾市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
玉名市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
天草市	初めての韓国語講座	中高生を対象とした、韓国語学習及び異文化交流を目的とした講座。
	地域の人づくり講座	県と共催する公民館関係者の育成講座。1／3年目。
山鹿市	図書館ボランティア養成講座	図書館ボランティアについて、基礎から内容を学習し、実働につなぐ講座。
菊池市	くまもと「親の学び」進行役養成講座	くまもと「親の学び」プログラムを活用した進行役を養成する講座。
	地域の人づくり講座	県と共催する地域で活動できる防災士リーダー育成講座。3／3年目。



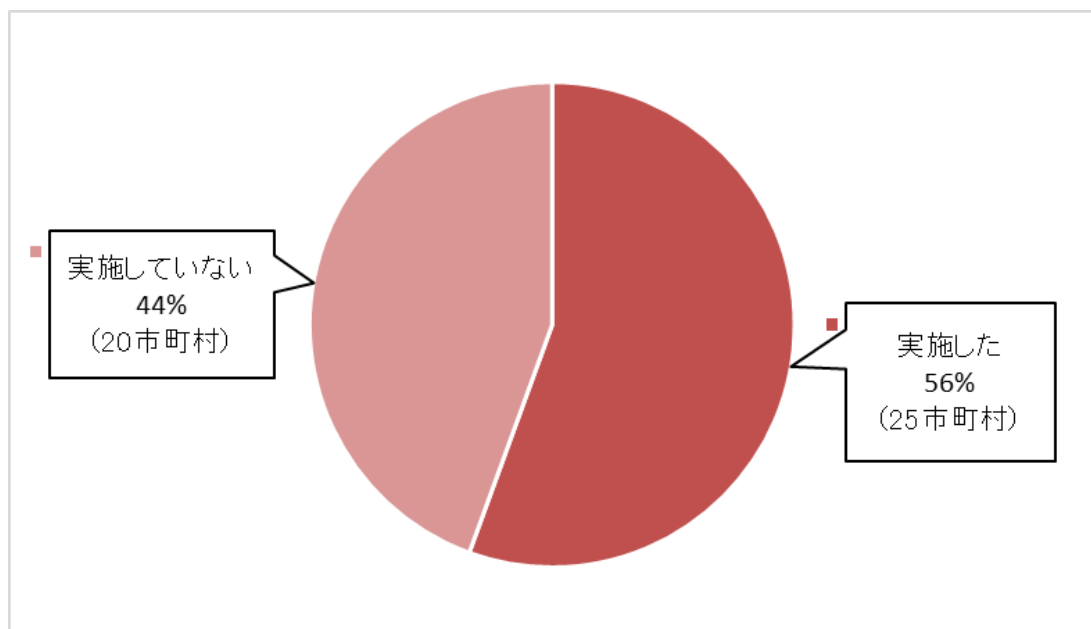
菊池市	私の町は どんなまち？	まだ知られていない「地域にある昔話」を身近な人から聞き、新しい物語を発掘して継承していく講座。
	季節を感じる花々の 寄せ植えアレンジ	季節の花を使って公民館の玄関を飾るなどのおもてなしを行う講座。
	“キクロス”で おもてなし	お茶やコーヒーの基礎知識や淹れ方を学び、実際にふるまう「おもてなし」を体験する講座。受講後はキクロスボランティアとしての活動を予定。
	古文書整理ボランテ ィア養成講座	古文書整理の基礎知識を学び、ボランティア活動につなげる講座。
	公民館サポーター 養成講座	公民館の講座企画をとおして、公民館事業運営のサポーターとして活動できる人材を育成する講座。
	旭志2021 手話講座	優しいまちづくりを目指し、日常で使える手話を学び、コミュニケーション力を身につける講座。
宇土市	ボランティア 養成講座	地域学校協働活動推進事業のボランティア養成を目的とした講座。園芸技術に関する実技と読み聞かせに関する講話を実施。
宇城市	地域の人づくり講座	県と共催する公民館祭りを通したまちのリーダーを育成する講座。 3／3年目。
長洲町	地域の人づくり講座	件と共催する自分の趣味や特技を人に教えるための講師養成講座。 3／3年目。
菊陽町	ジュニアリーダー 養成講座	小5から高校生を対象とした、学校や地域のリーダーとして活躍できる人材を育成する講座。
	学生ボランティア養 成講座	主催講座運営の補助など、参加する小中学生のリーダーとして活躍できる人材を育成する講座。
益城町	ふるさと学芸員	町の偉人「四賢婦人」について学び、修了者は「ふるさと学芸員」に登録及び「四賢婦人記念館案内人」として活動する。
氷川町	ふれあい大学	高齢者が豊かに社会生活と積極的な生きがいを求めるため、自発的意志に基づいて学習する。
津奈木	地域の人づくり講座	県と共催する公民館を通じた人材育成及び地域（まち）づくりの講座。 3／3年目。
錦町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
あさぎり町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
多良木町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。

湯前町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
水上村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
相良村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
五木村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
山江村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
球磨村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
中央公民館	絵本の読み聞かせ講座	読み聞かせの効果を高めるコツを学ぶとともに、沢山の本と触れ合うことで本の魅力を伝えることを目的で開設。
五福公民館	フットパス講座	コースを作ったり、案内する楽しさを感じてもらう講座。
南部公民館	傾聴ボランティア養成講座	傾聴の技能や理論を、ワークショップ形式やロールプレイ等をとおして身につけ、施設等の様々な場面で活躍できるように学ぶ講座。
東部公民館	竹細工講座	地域の高齢者を対象に、竹とんぼや竹笛作りの講座を企画し、そこで学んだスキルを子ども会行事で披露してもらう。
託麻公民館	障がい者サポーター養成講座	中学2年生におでかけ公民館として実施。今後の活動に生かしてもらった。
幸田公民館	自分軸ママで子育てを楽しもう！	家庭教育学級講座で、家庭教育に問題意識を持つ保護者向けの講演と情報交換を行い、仲間づくりの取り組みとした。
清水公民館	ワード・エクセル講座	清水在住の講師と講座生のつながりづくり、地域づくり、受講生の学習成果活用を目的とした講座。
大江公民館	白川中学校「マナーアップ」講座	中学2年生の生徒を対象に、思いやりの心を行動であらわせるよう、挨拶や身だしなみのマナーについて学習する講座。
花園公民館	土づくり講座	植物が良く育つための土の条件や作り方を学ぶ講座。学んだことを生かして、館内の花壇の整備等にも協力してもらう。
北部公民館	北部窓ふき隊	北部地域のボランティア団体と連携して、近隣の老人施設の窓ふきを中心にボランティア養成に視点を置いた活動を行っている。
河内公民館	河内花いっぱい計画！	自分たちで工夫して植えた花を、地域の施設に飾る。

天明公民館	子どもチャレンジ 公民館	熊本城について学習し、ガイド体験を行う。
富合公民館	布絵本づくり	フェルト生地で作る布絵本を作る。(子ども向け)
城南公民館	楽しく学べる 手話講座	手話の基礎を学び、手話ボランティアへのきっかけとする講座。
植木公民館	植木の史跡・名所の 歴史を学べ	植木の史跡・名所についての学習を通し、植木の良さを再発見するとともに、将来は植木の史跡・名所案内のボランティア活動等を行う。

回答状況から、地域で活躍する人材の育成やつながりづくりを視野に入れた講座を実施している市町村及び公民館が数多く見られた。

#### 問4 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか。(予定も含む)



昨年度と比較すると、実施した市町村の割合が3%上昇しているが、まだ、新型コロナウイルス感染拡大の影響があったと思われる。

次は、実施した市町村の事業例である。(回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。)

市町村等	事業名	内 容
八代市	キッズチャレンジ 2021 伝統文化に親子でチャレンジ	陶芸教室、アウトドア体験、ものづくり体験、伝統工芸と郷土料理づくり、い草まりづくり、俳句・短歌体験、華道体験等を実施。
人吉市	校区公民館子ども講座	体操・ダンス・将棋・囲碁・そろばん・お菓子作り等を実施。
	草木山川学校	子どもたちに良質な驚きと感動を引き起こし、「生きる力」と「郷土愛」を育むために、自然環境を活用した野外体験活動を実施。

荒尾市	コズミックカレッジ	宇宙科学を題材とし、且つ身近な物で行う科学の実験。
	親子で遊ぼう！英会話教室	小学校低学年及び保護者を対象とした英会話教室。
	作って飛ばそう！紙飛行機	紙飛行機づくりをとおして、飛行の原理を学べる講座。
水俣市	童話教室	子どもたちに童話を聞くこと、話すことの楽しさをもっと知ってもらうように、毎月、テーマを決めて実施。
玉名市	台風と大雨のしくみ	NPO 法人防災 WEST に講師を依頼し、夏休みの小学生を対象とした、天候と防災に関する講座。
天草市	家庭教育講座	幼児とその保護者を対象とした家庭教育講座。
	音楽の広場	親子でのリトミック及び演奏機会を提供する。
	親子ケーキづくり	親子でケーキづくりを楽しむ機会を提供する。
	七夕飾りと懐かしい遊び	七夕飾りと竹ぼっくり作りの講座。
	地元のいい物探し	せんだご汁づくりの講座。
	書道教室	書道教室。
	昔あそび	竹水鉄砲づくりの講座。
	親子健康体操教室	体の土台づくりを行う親子体操教室。
	体験講座	竹灯籠づくりの講座。
	読書イベント	絵本作家による読み聞かせを含めた講演会。
菊池市	スポーツにチャレンジ！ (東京五輪 2020)	オリンピックを意識して、自らが体を動かすきっかけづくりにチャレンジする講座。
	こども囲碁・将棋教室	囲碁将棋愛好会による分かりやすい指導を受けながら、囲碁将棋の世界に入門する講座。
	キッズチャレンジクラブ	初めて出会う友達と一緒に、体験や活動をとおして菊池の宝物を見つける講座。
	ウキウキ・わくわく自然発見隊 in きくち	自然や社会の現実に触れる体験をとおして、子どもたちの「生きる力」を育む講座。
	熊本高専生から学ぶプログラミング教室	熊本高専生からプログラミングを教わり、作って動かす楽しさを体感する教室。
	親子でミニ門松・クリスマスリースを作ろう	親子でミニ門松やクリスマスリースづくりの体験を行う講座。

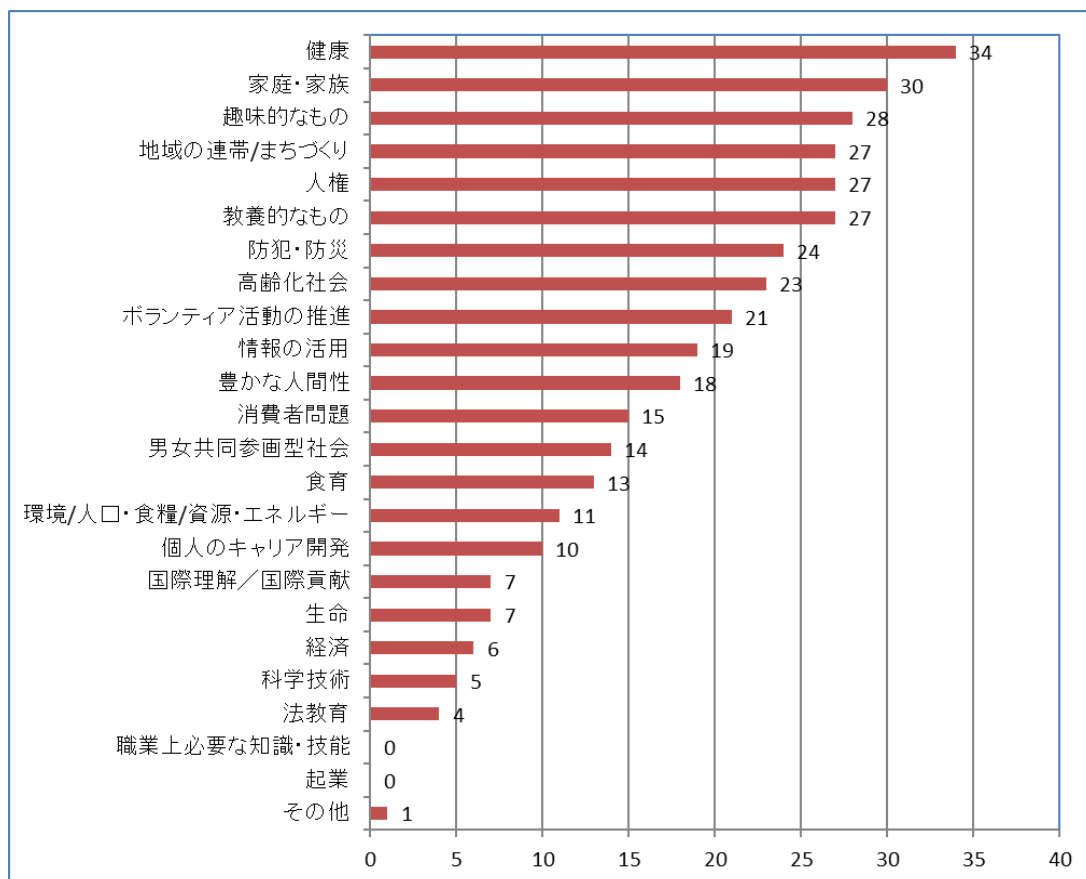
菊池市	ビブリオトーク	小学校3～6年生を対象にしたビブリオトークの講座。
宇土市	地域教育力活性化事業	農作物の苗植えや収穫、昔遊びや工作等を通じ、地域住民や異なる学年の児童と活動を共に行うことを通じて情操の形成や郷土愛を育むことを図る。
宇城市	ふれ愛学習会	差別をなくす行動のできる、差別に立ち向かうたくましい心を持つ子供の育成と仲間づくりの講座。
美里町	からだの話講座	小学生の親子を対象にした、心身の変化について学ぶ講座。
玉東町	子ども料理教室	小学生を対象に食生活改善推進協議会に講師として招き、料理教室を実施。
長洲町	夏の親子星空観察会	夏休みの思い出作りとして親子で参加する星空観察会。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。
大津町	木育教室	県立翔陽高校生を講師に木育教室を実施。
	キッズ英会話	低・高学年の2コースで英会話教室を実施。
菊陽町	青少年育成事業など	みそ作り、みそ玉作り、ネイチャーゲームと焼き芋づくり、ネイチャーゲームとバームクーヘンづくり、図書館お泊り探検隊など実施。
産山村	産山村人権集会	学校児童生徒等を対象として、人権作文の発表、人権メッセージの紹介、講演等を実施。なお、集会の様子を後日動画配信。
益城町	どんぐり工作	いろいろな大きさのどんぐりを使って、動物や昆虫など、さまざまな生き物をつくる講座。
甲佐町	子ども講座	放課後子供教室でシャボン玉づくりや水を使った遊びを実施。
山都町	子ども茶道教室	小・中学生を対象とした茶道教室。
氷川町	子ども人権教室	子どもたち一人一人の人権意識を高め、自分自身を大切にする自尊感情を高められるようにする教室。
津奈木町	つなぎ遊びの学校	町内の小・中学生を対象に、様々な体験(野外)活動等の場を提供する。
錦町	英会話教室	小中学生の希望者を対象に、ALTが英語を教えたり、国際交流・異文化理解を深めたりする教室。
	親子学び方教室	小学5・6年生及び保護者を対象に、国語・算数の力を伸ばす勉強法のポイントをベテラン講師(町内の校長・教頭)から教わる教室。
湯前町	英会話教室	学校ALTによる英語の学習教室。

水上村	奉仕・体験学習「ふるさと塾」	水上村の人づくりの一環として、将来を担う健全な青少年を育成するために、奉仕活動や体験活動を通して子どもたちの相互の連帯意識を深め、自立心を養いながら、心身ともにたくましい健全な子どもリーダーを養成する講座。
相良村	英会話教室	ゲーム等を通して英語を学ぶ教室。
	いけばな教室	生け花をいける教室。
中央公民館	科学工作ものづくり	いろいろな物を作る中で、物づくりの楽しさや面白さに触れる機会を提供する目的で開設。
五福公民館	子どもチャレンジ公民館	リーダー育成のため、プラン作成から実施までを行う。
	スラックライン体験講座	家族と一緒にスラックラインの体験を楽しむ講座。
西部公民館	子ども硬筆	小学生を対象にした硬筆講座。
南部公民館	キッズそろばん	そろばんの技能を習得する講座。
東部公民館	親子ものづくり・動くおもちゃを作ろう	手作りのおもちゃ作りを通して、ものづくりの楽しさを知るとともに、親子のふれあいの機会を作る講座。
	キッズトランポリン、キッズダンス	小学生を対象にダンスをしたり、トランポリン活動をしたりして、心身のリフレッシュを図る講座。
龍田公民館	おうち時間を楽しくするアナログゲーム	カードやボードを使うアナログゲームに親しむことで、人と人とのコミュニケーションの楽しさを実感する講座。
託麻公民館	生け花教室	生け花の体験を通して日本の伝統文化を学ぶ教室。
	児童館講座	幼児や子ども向けの体験活動などを行う講座。
	大学生主催イベント	大学生が講師となって英語教室や遊びの活動などを実施。
幸田公民館	英語に親しもう	熊本県立大学英米学科と連携した小学1年生～4年生対象の英語教室。
	トランポリン教室	小学校1年生～4年生を対象にしたトランポリン教室。
	親子で味噌作り	家庭教育学級での、親子味噌作り教室。
秋津公民館	東区子どもチャレンジ公民館	熊本大学メイクフレンズと連携して行う、参加者の小学生がプランナーとしてイベントの企画運営をする講座。

清水 公民館	トランポリン講座	競技用トランポリンを使用した講座。
	箏講座	講師が参加者分の箏を用意しての箏講座。
	プログラミング講座	民間企業による親子で協力しながら行うプログラミング講座。
大江 公民館	キッズ英会話を楽しもう	小学校1年～3年、4年～6年を対象に英語の歌に合わせて、体操したり、工作物を作りながら英会話の学習をする講座。
花園 公民館	子どもチャレンジ公民館	西区の名所を生かして、映画を作る講座。完成した映画は3月に開催する花園フェスで上映する。
北部 公民館	ほくぶキッズ遊学塾	応募してきた北部公民館エリアに在住の小学3年生～6年生24人を対象に、子どもたちがやりたいことを出してもらい、それをもとに計画を立て、ものづくりや博物館見学等の体験活動を中心に行う講座。
飽田 公民館	ジュニアダンス講座	小中学生を対象に、リズムに合わせてヒップホップダンスを中心としたダンス講座。
	マット・とび箱・鉄棒講座	小学2年～5年生を対象に、マット・とび箱・鉄棒運動の基礎技術の習得を目指す講座。
	Zoom おはなし会	幼児と保護者を対象に、Zoomを利用して童話の読み聞かせやパネルシアターの配信を行う。
河内 公民館	ポスターを描こう	夏休みの宿題のポスターを講師に習いながら描く講座。
天明 公民館	キッズそろばん	小学生の初心者向けそろばん講座。
富合 公民館	キッズイングリッシュ、キッズ体そう	英会話、体そうの講座。
城南 公民館	親子で学ぼう世界の国	JICAの協力のもと、カルタを使ってアフリカの生活・日本との相違などを考えるとともに、SDG'sも学ぶ講座。
植木 公民館	習字、生け花、プラネタリウム、プログラミング、トランポリン、体操	夏休みの課題(習字)の作成、生け花体験、ARプラネタリウム体験、プログラミング体験、トランポリン体験、体操教室等を実施。

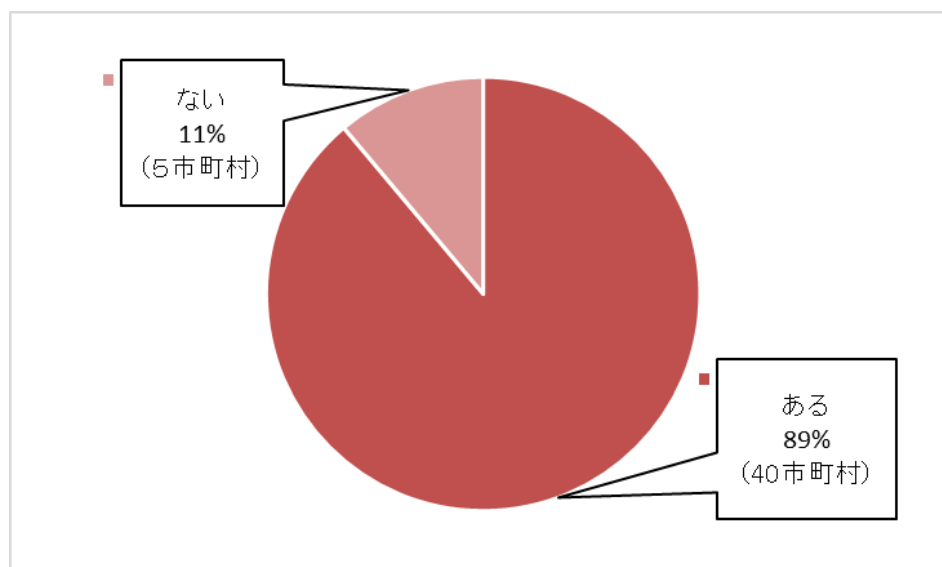
それぞれの地域にある資源や人材の活用、民間企業等と連携した講座が多く企画されている。講座内容としては、体験活動、ものづくり、スキル学習、リーダー育成など、工夫をこらしたプログラムが企画されている。また、今年度は、親子で参加する講座が多く見られた。

問5 今後、住民への提供が必要だと考えられる学習についてご記入ください。[複数回答可]



「健康」「家庭・家族」「趣味的なもの」「地域の連帯／まちづくり」「人権」「教養的なもの」が上位となっている。本問を今年度より記述式から複数回答可の選択式に変更をした結果、10近くの学習領域を回答した市町村が非常に多く見られた。様々な学習領域の講座の提供が必要だと感じていることが窺えた。

問6 生涯学習を行う上での課題や悩みはありますか。

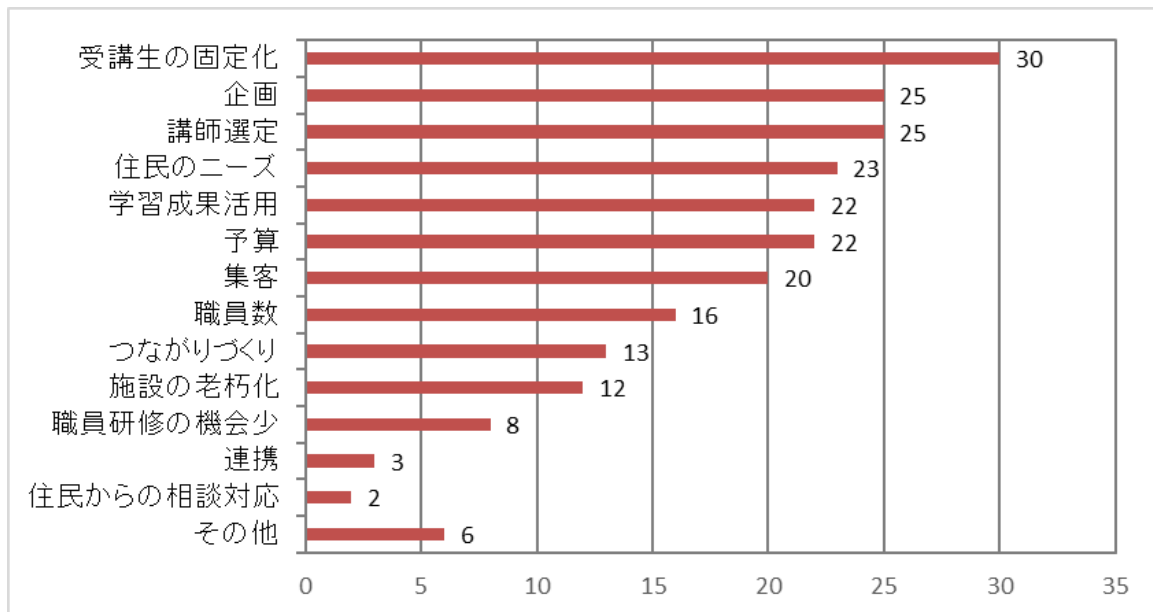


多くの市町村が課題や悩みを持ちながら、生涯学習を推進している状況がわかる。



問7 問6で「ある」と答えた方にお聞きします。課題や悩みの内容を教えてください。

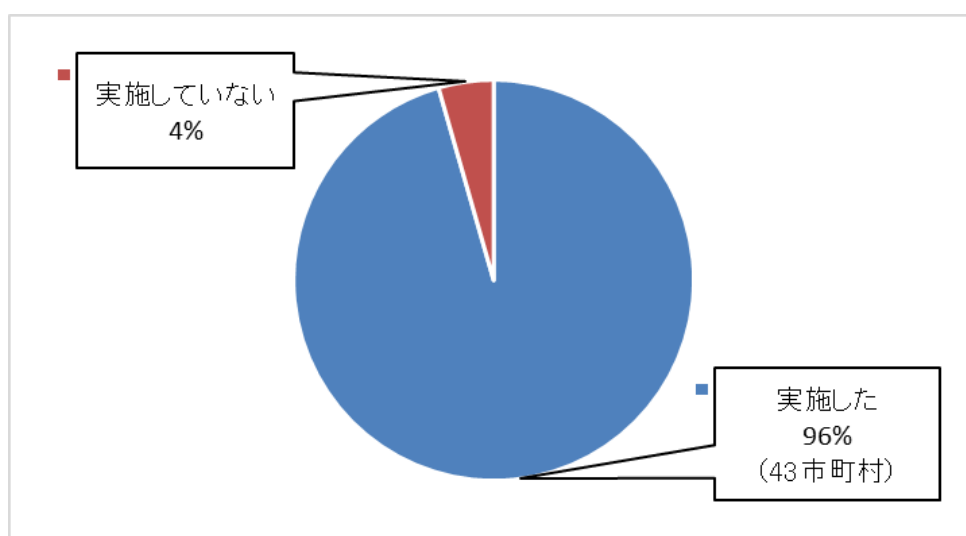
[複数回答可]



生涯学習を推進する上での課題や悩みとしては、「受講生の固定化」「企画」「講師選定」「住民のニーズ」「学習成果活用」が上位である。昨年度に比べ、「学習成果活用」が9市町村増加している。

その他としては、「自然災害の影響による活動場所の確保困難」「講座のネット配信に係るICT環境が不十分」等が挙げられている。

問8 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、事業の開催や運営方法等で、工夫や新たな取組を実施しましたか。



全ての市町村で、事業の開催や運営方法等で工夫や新たな取組が実施されている。

※実施していないと回答した2市町村は、講座自体が未実施。

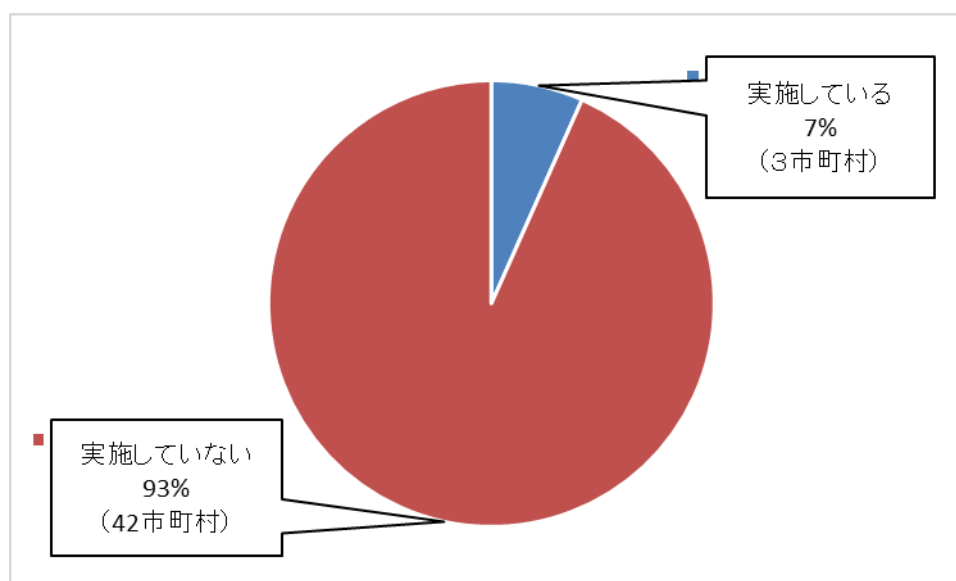
次は、実施した市町村の取組例である。(回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。)

※基本的な感染防止対策「マスク着用、換気、消毒、検温、人数制限、参加者同士の距離の確保」については、ほとんどの市町村で実施されているため、その他の取組み例を記載する。

- ・「講座のオンライン開催」15市町村
- ・「名簿・連絡先・健康チェック表の提出」9市町村
- ・「講座の動画配信」5市町村
- ・「料理講座での会食の中止（料理の持ち帰り）」2市町村
- ・「空気清浄機の設置」2市町村
- ・「サーキュレーターの使用」
- ・「感染防止対策マニュアルの作成」
- ・「学習教材等を紙媒体で提供」
- ・「2部屋をネットワークでつないで同時にビデオ開催」
- ・「自由参加できる講座の提供（開催時間や期間を長期化して密をさける）」
- ・「受講対象の絞り込み」
- ・「講演DVDの作成及び貸出」
- ・「ケーブルテレビの活用」
- ・「分散開催」

Zoom等を使用した「講座のオンライン開催」が多くの市町村で実施されている。中には、オンライン環境が整わないため、オンラインの講座を準備実施できる団体（機材やライセンス所有の団体）への協力依頼を行い、連携して実施したところもあった。

問9 社会教育指導員に対する研修を実施していますか。



社会教育指導員を対象とした研修を実施している市町村数は、3市町村で、年1回実施である。

### 第3章 県と市町村の連携事業

#### 1節「地域の人づくり講座」3年次経過報告

【事例1】公民館を中心に活動する人材を育成することを目的とした講座（長洲町）

#### 1 1年次の計画

地 域 課 題
○住民の社会参加が不足している ○人材バンク（総務課作成）があるが、機能していない。



全 体 目 標
地域で講師として活動できる人材を発掘、養成し、中央公民館の自主企画講座及び自治公民館での活動を活性化させる。



講 座 企 画			
テーマ	伝えたいことをカタチにする～公民館で講師デビュー!?!～		
講座目標	昨年度のサテライト教室を踏まえ、講座の講師としての基本的なスキルを学び、公民館の講座につなげる。		
方法	○人材バンク登録者を中心に募集をかける。 ○夜間講座として実施する。		
回数	演題・内容	講師	
1	演題	楽しい参加体験型講座の作り方 ～活動が満足度アップにつながる～	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	参加体験型講座の基本的な構成、進め方等を学ぶ。	
2	演題	行ってみたくなる講座の見せ方 ～企画から広報までのノウハウ～	株式会社 談 プランナー 甲斐 由貴
	内容	ニーズのつかみ、自分の趣味や特技と絡めて企画、広報までのノウハウを学ぶ。	
3	演題	想いが伝わる講師のマナー ～意外と見られている講師の立ち居振る舞い～	コミュニケーションセンター 代表 林田 美恵子
	内容	講師としての基本的なスキル（非言語の部分）を学ぶ。	
4	演題	想いが伝わる話し方 ～分かりやすく、心地よい発声スキル～	コミュニケーションセンター 代表 林田 美恵子
	内容	講師としての基本的なスキル（言語の部分）を学ぶ。	
公民館フェスタ			
5	演題	講師デビューに向けて ～公民館まつりの振り返り～	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	公民館祭りを振り返り、成果と課題を整理し、今後の講師としての活動に生かす。	

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	あなたの趣味や得意を地域に還元！～公民館で講師デビュー～	
講座目標	講座の講師としてのスキルを学び、公民館活動等の地域活動につなげる素地を養う。	
方法	○趣味や特技を生かして活動したい人を中心に募集をかける。 ○夜間講座として実施する。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	楽しい「公民館フェスタ」をつくる ～「参加する」から「企画する」へ～
	内容	講師や参加者から昨年度の公民館フェスタの感想（楽しかった点・反省点・改善点等）をもらい、今年度の方向性を確認する。
2	演題	あなたの企画書診断① ～人が集まる・人が喜ぶ企画へステップアップ～
	内容	事前に作成した企画書を基に、実施予定の講座内容をプレゼンする。講師や受講生から意見をもらい、磨き上げる。
3	演題	あなたの企画書診断② ～参加者の満足度を上げる手法を学ぶ～
	内容	練り直した企画書をもとに、模擬講座を行う。講師や受講生から意見をもらい、磨き上げる。
4	演題	第3回公民館フェスタに向けて
	内容	公民館フェスタに向けて、準備品等の確認や当日の段取り等を共通理解する。
公民館フェスタ		
5	演題	講師デビューに向けて ～公民館フェスタの振り返り～
	内容	公民館祭りを振り返り、成果と課題を整理し、公民館講座や自主講座へとつなげる。

内閣府地域活性化伝道師  
三角 幸三

内閣府地域活性化伝道師  
三角 幸三

### 3 3年次の計画

講座企画		
テーマ	魅力ある講座企画で地域を活性化！ ～講師としてのレベルアップを目指して～	
講座目標	講座の講師としてのスキルアップを図ることで、公民館活動等の講師としての活動や、地域活性化につながる活動を継続していこうという意欲を高める。	
方法	○昨年度の講座受講者や趣味や特技を生かして活動したい人に募集をかける。 ○夜間講座として実施する。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	講師としての活動の幅を広げよう ～コロナ禍に求められる講師のカタチ～
	内容	集合型の講座とオンライン講座のメリット・デメリットについて学ぶとともに、実施方法について考える。講座の後半は企画診断を行う。
2	演題	「魅力ある講座」への企画診断 ～企画・方法・講師それぞれの魅力～
	内容	これまでの経験をもとに事前に作成した企画書をもとに、講座内容をプレゼンし、講師からの助言を受ける。
3	演題	第4回公民館フェスタに向けて
	内容	令和4年2月11日（金）の公民館フェスタ開催に向けて、当日の準備及び役割分担等の確認を行う。
公民館フェスタ		
4	演題	講師として活動を続けるために ～公民館フェスタの振り返りから～
	内容	公民館フェスタを振り返り、成果と課題を整理し、今後の各自の活動へとつなげる。



3年間の成果と課題を踏まえ、次年度以降も公民館フェスタ等での活動を目標として、取組を継続していく。

#### 4 3年目の講座の実際

##### 【第1回】

集合型の講座とオンライン型の講座のそれぞれのメリット・デメリット等を具体的な事例をもとに学ぶことで、コロナ禍で多くの制約がある中での講座開催について考えた。「オンライン公民館」についての情報もあり、受講生の意欲が高まった。

##### 【第2回】

これまでの経験をもとに、受講生が各自で考えてきた企画のプレゼンを行った。プレゼン後に、講師から「演題の考え方」や「ブースの見せ方」等、企画を魅力的にするための具体的なアドバイスをもらった。受講生は、今後の工夫・改善点を明確にすることができた。

##### 【第3回】

公民館フェスタのチラシ、当日のブース配置や時間設定、参加費用等について、一つ一つ確認することで明確にしていった。特に、チラシの写真やブース内の配置については、各自の企画を最高の形で実現しようとする受講生のこだわりが見られた。

##### 【公民館フェスタ】

受講生が講師となって10講座（ブース）の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となった。

##### 【第4回】

公民館フェスタを振り返り、今後の各自の活動へとつなげる内容を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となった。

#### 5 3年目の成果と課題

##### 【成果】

公民館フェスタと振り返りの講座を実施することはできなかったが、各受講生のスキルアップと活動意欲の向上を図ることができた。また、今後の中央公民館や自治公民館での講座開設などを目標として、地域の中で活動を目指している新たな人材の発掘もできた。

##### 【課題】

講座や公民館フェスタの開催時期や開催方法を工夫し、できるだけ多くの方が参加できる事業として拡大・充実させていかなければならない。

#### 6 3年目以降の展開

3年間の成果と課題を踏まえ、次年度以降も公民館フェスタ等での活動を目指して、取組を継続していく。また、講師同士の交流会の場の設定や、中央公民館の施設使用料の減免等にも取り組んでいく。



講師の三角幸三先生



講座企画のプレゼンを行う受講生



作品を見せ、企画を説明する受講生



公民館フェスタのチラシ案



【事例2】地域防災のリーダーとして活動する人材を育成することを目的とした講座（菊池市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○市民全体の防災に関する意識が低下している。 ○防災士の資格を持っているが、各地域で防災リーダーとして、活動に繋がっていない。</p>



全 体 目 標
<p>防災士としてスキルアップを図り、平時における備えや防災意識の向上の取組と、災害時における地域防災の牽引役としての的確な判断と行動による地域住民の安心安全の確保。</p>



講 座 企 画			
テーマ	<b>防災士のためのスキルアップ講座</b>		
講座目標	防災士としての学び直しと、活動に向け必要なスキルアップを図る。		
方法	<p>○菊池市内の防災士取得者に募集をかける。 ○第2回目は、防災士の専門性を高めるために、ニーズに応じた講座を事前に選択し、受講する。</p>		
回数	演題・内容	講師	
1	演題	<b>今、必要な地域防災のあり方</b>	
	内容	ワークショップを通して防災士としての悩みや地域防災の課題などについて把握する。	熊本大学大学院 准教授 竹内 裕希子
2	演題	<b>実践型講座でスキルアップ</b>	
	内容	3つの中から一つを選択し、ファシリテーターとしての専門性を高める。	
	①災害対応ゲーム クロスロード	②避難所運営ゲーム HUG（ハグ）	③災害図上訓練ゲーム DIG（ディグ）
	災害時の難しい判断が迫られる状況を体験することで、災害を自らの問題として考える。 【講師】 くまもとクロスロード研究会 代表 徳永 伸介	避難所で起こる様々な出来事を疑似体験し、判断しながら、スムーズな入所、適切な運営を考える。 【講師】 熊本大学大学院 准教授 竹内 裕希子	地図を囲み、皆で地域の情報を共有し、論議しながら、防災マップをつくり、災害対策を考える。 【講師】 菊池市総務部防災交通課 危機管理監 野村 浩司
3	演題	<b>求められる防災士としての活動</b>	
	内容	第1回・2回の内容を踏まえて、次年度の計画を立案する。	
			熊本大学大学院 准教授 竹内 裕希子

## 2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	防災士のためのスキルアップ講座	
講座目標	地域防災力を強化する実践的スキルアップを図る。	
方法	○菊池市内の防災士（昨年度受講生）に募集をかける。 ○第3回～5回は、学校職員と連携し、「まち歩き」の実践を行う。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	防災とまちづくり～西原村の奇跡～
	内容	熊本地震での教訓をもとに、住民共助による広域避難所の運営について学ぶ。
2	演題	備えが当然のまちづくり～いますぐできる防災術～
	内容	東日本大震災、熊本地震の経験をいかした、いますぐできる防災術を習得する。
3	演題	学校と連携した地域防災力の強化①
	内容	隈府小学校区内の図上訓練&まち歩きを想定した関係機関とのワークショップを行う。
4	演題	学校と連携した地域防災力の強化②
	内容	隈府小学校区内の図上訓練&まち歩きの実践を通して経験を積む。
5	演題	学校と連携した地域防災力の強化③
	内容	図上訓練&まち歩き実践後の今後につなげる振り返りを行う。
		西原村議会議員 堀田 直孝
		歌うママ防災士 柳原 志保
		熊本大学大学院 准教授 竹内 裕希子

## 3 3年次の計画

講座企画	
テーマ	地域と学校が連携した防災行動計画～逃げ遅れゼロを目指して～
講座目標	他部局や学校と連携した実践的な活動をとおして、防災士としての更なるスキルアップと実践力の向上を図る。
方法	○他部局や大学と連携し、受講者のスキルアップを図る。 ○第2回～7回は、地域の学校も連携先に加え防災訓練の計画・準備・実践を行う。



回数		演題・内容	講師
1	演題	<b>タイムライン防災（事前防災行動計画）</b>	熊本県危機管理防災課 自主防災組織活動支援員 川本 収三
	内容	防災士が地区住民への指導者となるため、「くまもとマイタイムライン」の作成方法を習得する。	
2	演題	<b>学校と地域が連携した防災訓練① ～防災訓練シナリオ作成の基礎づくり～</b>	熊本大学大学院 先端科学研究部 准教授 竹内 裕希子
	内容	自然災害時に自ら判断し、自らの命を守り抜く力を児童に身につけてもらうため、「隈府小学校地区ブロックごとの防災まち歩き」実施のための有益な手段（戦略）を考える（ワークショップ）。	
3	演題	<b>学校と地域が連携した防災訓練①の協議</b>	防災交通課及 び中央公民館 職員
	内容	第2回講座で考えた「隈府小学校地区ブロックごとの防災まち歩き」実施のための有益な手段（戦略）を形にし、防災訓練シナリオの流れを整理する。	
4	演題	<b>学校と地域が連携した防災訓練② ～防災訓練シナリオを基にした計画作成・役割分担 ～</b>	熊本大学大学院 先端科学研究部 准教授 竹内 裕希子
	内容	第3回講座で形にした防災訓練シナリオを基に、防災訓練計画等の作成や当日の役割分担を決定する。	
5	演題	<b>学校と地域が連携した防災訓練②の協議</b>	防災交通課及 び中央公民館 職員
	内容	第4回講座で作成した防災訓練計画等や役割分担を基に、関係機関へ説明を行い、事前準備・練習を行う。	
6	演題	<b>学校と地域が連携した防災訓練③ ～いざ実践！防災まち歩き～</b>	熊本大学大学院 先端科学研究部 准教授 竹内 裕希子
	内容	通学路の危険箇所点検を目的とした、「隈府小学校地区ブロックごとの防災まち歩き」を行う。自らの判断で行動する力、通学路の危険箇所の把握、災害から身を守る方法を、防災士が主となり児童に指導する。	
7	演題	<b>学校と地域が連携した防災訓練④ ～いざ実践！防災まち歩きマップづくり～</b>	熊本大学大学院 先端科学研究部 准教授 竹内 裕希子
	内容	第6回で実践した内容を、地区ブロックごとに分かれ、防災士と一緒に「防災まち歩きマップづくり」を行う。	
8	演題	<b>学校と地域が連携した防災訓練⑤ ～実践後の今後につなげる振り返り～</b>	熊本大学大学院 先端科学研究部 准教授 竹内 裕希子
	内容	「防災まち歩き及びマップづくり」実践後の今後につなげる振り返りを行う（改善点や他地域での活用等について整理する）。	



防災訓練の実践内容を市内外へ広報するとともに、引き続き、防災士同士が協力し合える体制づくりを目指していく。

## 4 3年目の講座の実際

### 【第1回】

講師から県内における自然災害による被害状況や「くまもとマイタイムライン」作成の背景について説明があった。その後、シートを使って避難方法を考えたり実際に書き込んだりする活動を行い、マイタイムラインの作成の方法を学んだ。

### 【第2回】

隈府小学校児童との防災まち歩きのために、講師からその目的や活動の流れ等について話があった。その後、実際に小学生を対象に「防災士の役割と活動」を指導した防災士4名の実践報告があり、受講者は興味深く聞いていた。

### 【第3回】

第2回で決定した班編成に従って、グループ毎に経路図の作成を行った。受講者は、市の防災マップ、キッズセーフティマップを参考に、白地図に経路を記入した。また、地域の実情に合わせ、どのような「観点（点検する項目）」を持つとよいのかについてもグループで話し合った。

### 【第4回】

第3回で作成した経路図を基にルートを確認しながら、所要時間を把握したり、まち歩きの観点（災害時に役立つ場所、災害時に危険な場所）やルールを決めたりした。その後、当日は、児童にどの地点で何を説明するのかを整理し、役割分担を行った。

### 【第5回】

地域住民（区長、公民館長）に参加を募り、全体で「防災まち歩き」の目的や当日の日程、まち歩き後のマップ作成までの流れについて確認した。その後、グループ毎に分かれ、役割分担、準備物の確認を再度行い、実際の説明練習を行った。

### 【第6回、第7回】

新型コロナウイルス感染症の感染大防止のため中止した。防災まち歩き実施について、年度内の再調整を試みたが困難となり、改めて次年度に実施する方向で検討している。

### 【第8回】

今年度の振り返りと閉講式を行った。



マイタイムラインの作成  
方法を学ぶ受講生



経路図を作成する受講生



当日の役割分担を決める受講生



説明する場所を確認する受講生

## 5 3年目の成果と課題

### 【成果】

学校と地域が連携した防災訓練の実施に向けて、防災士が主体となりアウトプットを中心にグループ協議の活動を重ねた。そのおかげで、防災士同士の横のつながりが強化し、地域と学校が連携した防災訓練の実施に向け、実践力の向上に向けた取組を進めることができた。

### 【課題】

今年度、実践できなかった「まち歩き・マップづくり」については、次年度実施へ向け検討している。今後、確実に引継ぎを行う。

## 6 今後の展開

今回学んだ防災訓練の計画・準備における手法は他地域でも活かせるため、実践に向けた今後の取組として広く周知し、活用していく。また、防災士同士が協力し合える体制づくりをサポートし、防災士の活躍の場を確保するとともに、市民や次世代を担う子供たちの防災意識を高めていく。

【事例3】地域リーダーの育成を目的とした講座（宇城市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
公民館5館が防災拠点センターになると、「集い・学び・つながる」という公民館的機能が大きく低下する可能性がある。



全 体 目 標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館祭りの実施に向けた取組を通して、まちづくりに関わる人材育成を行う。</li> <li>・まちづくりに向けた地域活動が継続するような仕組みを整える。</li> </ul>



講 座 企 画		
テーマ	<b>わがまちを元気にしたい人 大集合！！</b> ～元気な「まちづくり」をスタート！～	
講座目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の強みを生かしたまちづくり、防災・減災に向けたまちづくり等を学ぶ。</li> <li>・公民館祭りに向け、地域や受講生の趣味や特技を生かした取組を考え、必要なスキルや態度を学ぶ。</li> </ul>	
方法	○5回の夜間講座を実施し、地域のリーダーに求められる事柄を講演やワークショップを通して学ぶ。 ○5回の講座後、公民館祭りの開催に向けて、地域リーダーを中心に準備を行う。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<b>ウキウキ宇城市の未来会議</b> ～my総合計画をつくろう～
	内容	宇城市をより良くするための意見を出し合い、参加者同士の交流を図る。
2	演題	<b>大災害！その時あなたならどうする？</b> ～災害に強いまちづくりとは…～
	内容	熊本県版クロスロードの体験を通して、防災・減災の視点からまちづくりを考える。
3	演題	<b>話し合いが楽しくなる！！</b> ～思いを引き出す司会術（ファシリテーションの手法）～
	内容	住民同士の話し合いを円滑に進めることができるファシリテーションスキルについて学ぶ。
4	演題	<b>あなたのまちの“強み”は？“弱み”は？</b> ～地域の現状をとらえ直す～
	内容	地域の強みと弱みを整理し、公民館活動へとつなげていく。
5	演題	<b>公民館祭りで「あなたのまち」を活性化！</b> ～あれもできる！これもできる！！～
	内容	公民館祭りに向けて、プログラムを考える。

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	<p>わがまちを元気にしたい人 大集合！！ ～元気な「まちづくり」をスタート！【2年次】～</p>	
講座目標	<p>公民館祭りに向け、地域や受講生のアイデアを生かした取組を考え、地域住民のリーダーとして必要なスキルを学ぶ。</p>	
方法	<p>○4回の夜間講座を実施し、公民館祭りの実施に向けた取組をとおして、地域住民のリーダーとして活躍できる人材を発掘、養成する。 ○地域住民のリーダー同士の交流やネットワークの仕組みを整える。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p>私たちのアイデアで公民館祭りを活性化① ～相手を心地よくするコミュニケーションのヒミツ～</p> <p>いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子</p>
	内容	
2	演題	<p>私たちのアイデアで公民館祭りを活性化② ～宇城で輝く宇輝人が語る～</p> <p>宇城市広報誌連載の宇輝人 宮本 春隆 内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p>
	内容	
3	演題	<p>私たちのアイデアで公民館祭りを活性化③ ～あれもできる！これもできる！！～</p> <p>内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p>
	内容	
4	演題	<p>私たちのアイデアで公民館祭りを活性化④ ～1ランク上のプログラム作り！！～</p> <p>内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p>
	内容	

3 3年次の計画

講座企画		
テーマ	<p>わがまちを元気にしたい人 大集合！！ ～コロナに負けないまちづくり【3年次】～</p>	
講座目標	<p>ICT機器を活用して好きなことや得意なことを多くの人に発信する方法を学び、情報を共有する仲間を増やし、リーダーを中心に地域活動を活性化させる。</p>	
方法	<p>○4回の夜間講座を実施し、公民館祭りの実施に向けた取組をとおして、地域住民のリーダーとして活躍できる人材を発掘、養成する。 ○ICT機器を活用した発信方法やつながりづくりの方法を学ぶ。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p>私たちのアイデアで地域を活性化！ ～人が集まるプログラムと仕組みを考える～</p> <p>内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p>
	内容	
2	演題	<p>SNS活用講座 ～趣味や町の魅力 あなたの好きを発信しよう～</p> <p>アビリティスクール・マリオネット 代表 村上 奈美</p>
	内容	
3	演題	<p>新しい時代の公民館まつりにチャレンジ ～ウィズコロナ時代の地域活動と オンライン公民館を考える～</p> <p>内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p>
	内容	
公民館まつり		
4	演題	<p>本年度の振り返りと今後の方向 ～アフターコロナ時代の地域活動を考える～</p> <p>内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p>
	内容	



3年間の成果と課題を踏まえ、公民館まつり等での活動をとおした地域リーダーの育成を目指す講座の企画と実施を継続していく。



## 4 3年目の講座の実際

### 【第1回】

地域の活性化に向けて「人が集まる一工夫」を視点を、企画や開催方法を学んだ。また、実際にオンライン交流を体験し、オンライン講座の可能性についても考えた。後半は公民館まつり参考企画として、簡単にできる制作活動を体験し、意欲が高まった。

### 【第2回】

SNSを活用して、趣味や町の魅力を発信するために、SNSの仕組みやスマートフォンの具体的な操作方法について学んだ。SNSで発信する写真の撮影の工夫点や、文章（コメント等）作成のポイント、発信の注意事項などを知り、受講者からは「初めて知った」等の声が多く聞かれた。

### 【第3回】

受講者は、アナログゲームや年齢に応じた運動を取り入れた遊び等を体験し、公民館まつりで地域の方や子供たちと交流するイメージを明確にすることができた。また、各自が公民館まつりで実現したい企画を伝え合うことで、更に意欲が高まった。

### 【公民館まつり】

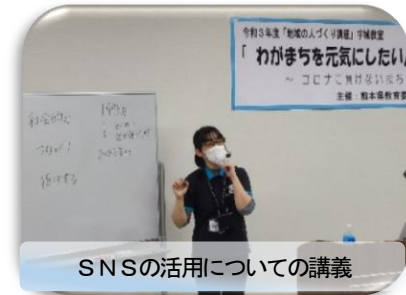
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。

### 【第4回】

公民館まつりは実施できなかったが、次年度の開催に向けて、3年間の成果と課題を振り返りながら、人が集まる企画について改めて考える機会となった。



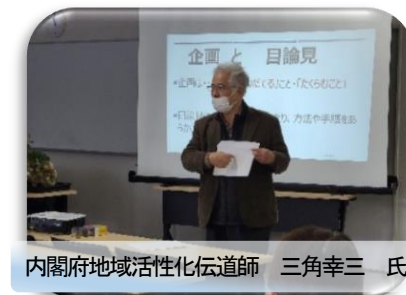
オンライン交流を体験する受講生



SNSの活用についての講義



実際に体験して学ぶ受講生



内閣府地域活性化伝道師 三角幸三 氏

## 5 3年目の成果と課題

### 【成果】

公民館まつりを実施することはできなかったが、受講者が講師やサポート役となって公民館まつりを運営していく計画を立てることができた。ICTを活用した情報の発信や他地域との交流にも関心が高まったため、次年度は実践できる場を設定していきたい。

### 【課題】

地域の資源（人・物・コト）を生かして、地域リーダーを中心とした地域の活性化につながる企画を考える必要がある。

## 6 3年目以降の展開

3年間の成果と課題を踏まえ、公民館まつりの活動をとおした地域リーダーの育成を目指し、受講生が自主的に活動できるような講座の企画と実施を継続して取り組む。

【事例4】自治公民館の活性化を目的とした講座（津奈木町）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域の自治公民館の活動が、地域によって温度差がある。 ○活動が少なく、地域住民の参加も少ない地域がある。



全 体 目 標
地域で先頭に立ち活動できる人材を育成し、地域が求める公民館活動が継続できる仕組みをつくる。



講 座 企 画		
テーマ	公民館が元気になると まちが元気になる ～未来につながる 津奈木のまちづくり～	
講 座 目 標		
講座目標	地域のまちづくり、つながりづくりにおける公民館活動の重要性を認識し、具体的な公民館活動に向けた計画を立てる。	
方法	○事前に区長会長へ説明し、理解を得る。 ○第1講を区長会に合わせて実施し、区長の理解を得る。 ○夜間講座として実施する。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	全国のまちづくりに学ぶ① ～ワクワク公民館活動に向けて～
	内容	まちづくりにおける全国の事例研究を通して、公民館活動の必要性を知る。（7月の区長会で実施）
2	演題	全国のまちづくりに学ぶ② ～ワクワク公民館活動に向けて～
	内容	まちづくりにおける全国の事例研究を通して、公民館活動の必要性を知る。
3	演題	あなたのまちの長所は？短所は？ ～見えていなかったところが見えてくる～
	内容	津奈木町の長所と短所を整理し、公民館活動への足掛かりとする。
4	演題	地域の課題を解決するには… ～見方を変えると短所が長所が変わる～
	内容	地域の課題を解消するための、持続可能な活動について考える。
5	演題	地域の強みを生かすには… ～ぐんぐん伸びる、あなたのまちの長所～
	内容	地域の強みを生かした、持続可能な活動について考える。
		内閣府地域活性化 伝道師 三角 幸三

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	<p align="center"><b>公民館が元気になると まちが元気になる</b>  <b>～未来につながる 津奈木のまちづくり～【2年次】</b></p>	
講座目標		
講座目標	<p>地域のまちづくり、つながりづくりにおける公民館活動の重要性を認識し、具体的な公民館活動に向けた計画を立て、公民館活動に必要なスキル等を学ぶ。</p>	
方法	<p>VTS (Visual Thinking Strategy) の手法を用いて、受講生が津奈木町の自然や芸術等のよさを生かして取り組める活動を考え、順次、実践していく。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p align="center">内閣府地域活性化 伝道師 三角 幸三</p>
	内容	
2	演題	
	内容	
3	演題	
	内容	
4	演題	
	内容	
5	演題	
	内容	
<p align="center">モデル地区で公民館活動実施            (※新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止)</p>		



### 3 3年次の計画

講座企画		
テーマ	<p align="center"><b>公民館が元気になると まちが元気になる</b>  <b>～未来につながる 津奈木のまちづくり～【3年次】</b></p>	
講座目標		
講座目標	<p>地域のまちづくり、つながりづくりにおける公民館活動の重要性を認識し、具体的な公民館活動に向けた計画を立て、公民館活動に必要なスキル等を学ぶ。</p>	
方法	<p>町の活性化推進委員と連携しながら、津奈木町の自然や芸術等のよさを生かした活動のアイデアを出し合い、モデルとなる公民館活動を創り上げる。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p align="center">内閣府地域活性化 伝道師 三角 幸三</p>
	内容	
2	演題	
	内容	
3	演題	
	内容	
4	演題	
	内容	
5	演題	
	内容	



3年間の成果と課題を踏まえ、今後も定期的に行うことで、継続的な地域活動の実践を目指す。

## 4 3年目の講座の実際

### 【第1回】

過去2年間の活動を振り返りながら、「地域の遊びを活用」「交流人口を増やす」などの10の視点に基づいた公民館講座の企画アイデアの紹介があった。コロナ禍でも活動内容やアイデアで費用がかからない活動の提案等があり、今後の地域活動の在り方を考える機会となった。

### 【第2回】

「コロナ禍における地域活動の在り方を考える」というテーマでZoomミーティングを活用したオンライン講座を体験した。また、子供と大人がふれあいながら楽しめる活動や遊びを知り、公民館活動の実践に向けた知識と方法を身につけることができた。

### 【第3回】

モデル事業として、津奈木小学校のPTA学年行事「親子レクリエーション大会」を企画・運営するために、事前準備を行った。当日は、受講者が各遊びのブースを担当し、親子ヘルール説明をすることになるため、実際に遊びを体験しながら準備物や声かけの仕方など講師からアドバイス受け、受講者同士でも情報交換することができた。

### 【第4回】

実践活動として、津奈木小学校PTA学年行事で遊びのブースを運営しながら、地域住民と児童・保護者が交流する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。

### 【第5回】

3年間の活動を振り返るとともに、今後、受講者がどのような形で地域活動を進めていくのかを検討・発表した。講座で学んだことを生かしていくことやコロナ禍での活動、豪雨災害後の防災意識の向上等、地域コミュニティの維持と活性化に必要な意見が出された。



企画を体験する受講生



オンラインで交流する受講者



子供たちに説明するために  
遊びのルールを確認する受講者



自分の思いを伝える受講者

## 5 3年目の成果と課題

### 【成果】

これからの津奈木町について、地域コミュニティの維持と活性化という視点から、多くのアイデアや具体的事例を学ぶことができ、受講者の活動意欲が高まった。

### 【課題】

中止した第4回の実践活動をできる範囲で実施する。また、先進的な町内の自治公民館の取組を町全体へ紹介するなど、学びの場をつくることで、活動の活性化を目指す。

## 6 今後の展開

3年間の成果と課題を踏まえ、地区公民館が継続して情報収集できる場を設けるとともに、活動が衰退しないように、定期的に養成講座を実施する。また、老人会、婦人会、PTA等の関係団体や他部局との連携を図りながら活動の場を広げる。

### 第3章 県と市町村の連携事業

#### 2節「地域の人づくり講座」2年次経過報告

#### 【事例5】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（荒尾市）

##### 1 1年次の計画

地 域 課 題
地域学校協働活動推進員等の人材発掘や後継者の育成を図りながら、継続的な地域学校協働活動を行う必要がある。



目 標
地域学校協働活動の中心的な役割を担う人材を発掘、育成することによって、学校との連携をより密にし、地域学校協働活動の推進を図る。



講 座 企 画			
テーマ	<b>大好きなあらおっ子の“育ち”のために！</b> <b>～あらお（ベーシック）版 地域学校協働活動をすすめよう！～</b>		
方法	○受講対象者は、地域学校協働活動推進員等及び学校関係者等とする。 ○地域学校協働活動推進員等から活動内容を学校へ提案できる取組を入れる。		
回数	演題・内容	講師	
1	演題	<b>聞いて、教えて みんなの実践！</b> <b>～地域学校協働活動は幅が広い～</b>	県社会教育課 主幹 北岡 誉久
	内容	参加者同士が自分の実践を伝え合い、自分の取組を振り返るとともに、視野を広げる。	
2	演題	<b>推進員に求められていること</b> <b>～私にできること みんなでできること！～</b>	県統括コーディネーター 山平 敏夫
	内容	学校運営協議会との連携を含めた推進員の役割やCSの事例等を学ぶ。	
3	演題	<b>行って、見て、感じて！</b> <b>～先進地事例や先進者から学ぼう～</b>	上天草市地域学校協働活動推進員 竹本 健朗
	内容	先進地事例や先進校事例を通して、活動の取組方や子供の育ち等について学ぶ。	
4	演題	<b>地域学校協働活動が楽しくなるコツ！</b> <b>～心の距離を近づけるコミュニケーション術！～</b>	いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子
	内容	学校・行政職員、ボランティア、子供や保護者等をつなぐコミュニケーションスキルや、様々な支援方法を学ぶ。	
5	演題	<b>地域と学校の連携</b> <b>～CSMAPに挑戦してみよう～</b>	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	学校のニーズや地域資源（人・もの・こと）の情報を収集、整理し、地域学校協働活動の計画の立て方を学ぶ。	

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	<p align="center"><b>大好きなあらおっ子の“育ち”のために！</b>  <b>～あらお（ベーシック）版 地域学校協働活動をすすめよう！～【2年次】</b></p>	
方法	<p>○地域と学校が協働して取り組む学校図書館の活性化を目指し、先進事例について学び、学校への計画提案へつなげる。          ○参加者同士がつながれるように、グループワークを多く取り入れる。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p align="center"><b>みんなの力が学校・地域を元気にする！</b>  <b>～地域学校協働活動でつくる未来の姿～</b></p>
	内容	
2	演題	<p align="center"><b>子供たち大喜び！学校図書館づくりのコツ教えます！</b>  <b>～先進事例を聞いて、見て、納得～</b></p>
	内容	
3	演題	<p align="center"><b>学校図書館リニューアル大作戦</b>  <b>～子供たちが行きたい！読みたい！空間づくり～</b></p>
	内容	
4	演題	<p align="center"><b>伝えよう！学校図書館リニューアル計画</b>  <b>～みんなの思いが子供たちに届く！～</b></p>
	内容	



2年次の成果と課題を踏まえ、3年次の計画を立て、地域学校協働活動の安定的・継続的な取組を目指す。



### 3 講座の実際

#### 【第1回】

地域学校協働活動推進員、地区協議会役員、PTA役員が一堂に会し、地域学校協働活動やコミュニティスクールの目的を再確認するとともに、一体的な推進について学んだ。子供を主人公にする地域学校協働活動へのブラッシュアップを図るための演習を行った。既存の活動を生かしながら「プラス1」するアイデアについて意見交換を行い、これから目指す活動へのイメージを持つことができた。

#### 【第2回】

荒尾市立図書館のリニューアルに合わせ、学校図書館を充実させるためのヒントとなる、学校・地域・公共図書館が連携した取組について学んだ。その後、子供たちが行きたくなる図書館作りのためのディスプレイ（クリスマスツリー）制作を行った。参加者から大変好評であり、後日、そのディスプレイを学校図書館に飾った学校もあった。

#### 【第3回】

学校図書館の活性化のために、子供たち、専任職員、地域ボランティア、教職員が連携した事例の紹介があった。それぞれの立場で関わりながら、自分たちの図書館をつくっていくことが、みんなで育ち合う場となることを学んだ。参加した地域学校協働活動推進員からも「学校図書館作りには学校と地域の連携が大切なことが分かった。」との感想があり、図書館が「次世代を育てる拠点・地域の人づくりの拠点」になる可能性を確認することができた。

#### 【第4回】

「学校図書館リニューアル計画」について話し合う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により開催を中止した。



講師の話聞く受講生



ディスプレイ制作をする受講生



学校や地域が連携した事例  
について学ぶ受講生

### 4 2年目の成果と課題

#### 【成果】

参加した地域学校協働活動推進員からは、「学校図書館づくりは、連携して活動しなくてはいけないと思った。」や「人づくり講座で学んだことを、活動している図書ボランティアやPTAの方々にも紹介していきたい。」といった感想が聞かれ、地域と学校が連携した学校図書館作りという新たな視点を学ぶことができた。

#### 【課題】

一部の参加者から「司書や図書室担当の教諭とのつながりがなく、今回学んだことをどのように生かしていいかわからない。」「学校に自分から提案していいかわからない。」という声があった。地域学校協働活動推進員が自ら学校との関係を深め、最終的には自ら企画・立案してコーディネートできるようになるための具体的な手立てや意識改革が必要である。

### 5 3年目以降の展開

地域学校協働活動推進員自ら企画・立案し、学校へ活動案を提案できるようコーディネート力のスキルアップを目指す。また、学校図書館を核とした地域学校協働活動をテーマに、多様な立場の人が一堂に会する場をつくり、みんなでアイデアを出し合うなど、学校、家庭、地域、行政、子供の五者で情報の共有と実践化を図る。

【事例6】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（八代市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域学校協働活動を推進していくため、新たな人材の育成が必要である。 ○継続的な地域学校協働活動の仕組みを整える必要がある。



目 標
地域学校協働活動に係る施策や事例等を知り、地域学校協働活動推進員等（地域コーディネーター）に必要な知識や技能を学ぶ。



講 座 企 画		
テーマ	<b>あなたの力が、やっしろの子供・地域を育てます！ ～やっしろの絆でつむぐ地域学校協働活動！～</b>	
方法	○受講対象者は、地域学校協働活動推進員等及び学校関係者等とする。 ○学習形態は、講義形式とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<b>八代版 地域学校協働活動に期待されること！ ～「お互い様」が、地域、学校、子供、住民をつなぐ～</b>
	内容	地域、学校、家庭の連携・協働の意義や在り方を学び、地域学校協働活動推進員等の役割を考える。
		元県統括コーディネーター 浅野 一登
2	演題	<b>できるとき、できる範囲が合い言葉！ ～地域学校協働活動でやれること！～</b>
	内容	地域学校協働活動の具体例を知り、地域における役割とその位置づけを学ぶ。
		荒尾市地域学校協働活動推進員 田中 なつみ 県子ども会連合会 事務局長 横手 宏公
3	演題	<b>地域学校協働活動が楽しくなるコツ①！ ～心の距離を近づけるコミュニケーション術！</b>
	内容	学校・行政職員、ボランティア、子供や保護者などをつなぐコミュニケーションのスキルを学ぶ。
		いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子
4	演題	<b>地域学校協働活動が楽しくなるコツ②！ ～やっしろの宝（ひと・もの・こと）を生かす術～</b>
	内容	地域資源（ひと・もの・こと）のを見つけ方を知り、地域資源を地域学校協働活動につなげていくよさを学ぶ。
		熊本県立大学 教授 柴田 祐
5	演題	<b>地域のSOSを読み解く！ ～みんな笑顔 やっしろのまちづくり～</b>
	内容	地域の様々な課題解決に向け、地域の強みを生かした取組について考える。
		八代市学校教育課 指導主事 前田 博治 八代市教育サポートセンター 支援相談員 西村 文子

## 2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	<b>あなたの力が、やっしろの子供・地域を育てます！</b> <b>～やっしろの絆でつむぐ地域学校協働活動！～（2年次）</b>	
講座目標	地域学校協働活動の企画作成や先進事例を通して、地域学校協働活動推進員等としての知識や技能を高める。	
方法	○受講者の主体的な研修及びネットワークづくりのため、参加体験型の研修や受講者同士の交流活動の場を設定する。 ○学校の実際の活動や課題を知り、学校支援を中心とした地域学校協働活動の実例に学ぶ。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<b>地域と学校の連携・協働</b> <b>～CSMAPで計画づくり～</b>  内閣府地域活性化 伝道師 三角 幸三
	内容	
2	演題	<b>子供たちは地域のたからもの</b> <b>～子供たちの瞳が輝くために～</b>  玉名市立玉陵中学校 校長 丸塚 慎一郎
	内容	
3	演題	<b>地域力を結集！</b> <b>～見える化で、子供の笑顔を広げます～</b>  八代市教育サポートセンター （くま川教室） 室長 白濱 孝治 指導員 宮崎 ゆみ子
	内容	



2年次の成果と課題を踏まえ、3年時の計画を立て、地域学校協働活動の定着を目指す。学び直しとして、フォローアップ研修や先輩実践者の体験談等を聞く機会を設定する。

### 3 2年目の講座の実際

#### 【第1回】

地域学校協働活動について、その概要を学ぶとともに、自分が関わる学校や地域の具体的な事例に応じて考えるCSMAPという手法を学んだ。受講生にとって、学校や地域との関わり方や年間活動計画を見直したり、見直しをもったりすることの大切さを学ぶことのできる講座となった。また、地域学校協働活動における企画や取組について、受講者がお互いの状況や喜び、悩み等について、共有・共感できる場が設定されたことで、受講生の今後の活動の励みになった。

#### 【第2回】

受講生は、玉陵小中学校の学校運営協議会の事例を通して、学校運営協議会と地域学校協働活動推進員の「一心同体」となる良好な関係づくりについて学ぶことができた。また、学校支援活動の事例から、学校と地域のニーズを把握することや連絡・調整の方法、子供を主体とした地域貢献のサポート等、地域と学校の双方向の関係づくりの在り方について学ぶことができた。

#### 【第3回】

八代市の不登校等の現状や適応指導教室（くま川教室）について学習した。八代市が抱えている不登校問題や支援活動について知ることができた。

また、外国にルーツを持つ子供や保護者が地域や社会に適応できるように活動している八代中高生ボランティアクラブの取組についても知ることができた。

受講生にとっては、これらの課題にどのように関わることができるのか考えるとともに、それぞれの立場でネットワークづくりや人材育成等について考えるよい機会となった。



CSMAPの活用を学ぶ受講生



学校と推進員の関係について  
意見交換をする受講生



適応指導教室の取組を学ぶ受講生

### 4 2年目の成果と課題

#### 【成果】

講座を通して、他の学校や地域における先進事例や、八代市の課題解決に関する取組等を学んだことで、地域学校協働活動推進員や主任児童員等にとって、地域学校協働活動の取組や教育課題に関する理解が深まり、活動意欲の向上につながるよい機会となった。

#### 【課題】

地域学校協働活動に参画する人材発掘のための周知・広報や、各学校間の取組状況の地域間格差の課題がある。今後、本講座や学校訪問、研修会等を通して、さらに地域学校協働活動の推進のための周知・啓発を行っていききたい。

### 5 3年目以降の展開

今後は、自走化に向け、地域学校協働活動推進員と教職員、地域学校協働活動推進員と地域住民など連携の各主体を結ぶような取組（研修やワークショップ、事例発表会）を企画したい。



【事例7】地域学校協働活動推進員の人材育成を目的とした講座（玉名市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域学校協働活動推進員の経験の差が大きい。 ○中学校区以外の地域学校協働活動推進員同士の連携や交流が活発でない。



目 標
地域学校協働活動推進員同士の横のつながりをつくるとともに、求められるコミュニケーションスキルを学び、活動の実際に生かそうとする態度を養う。



講 座 企 画		
テーマ	つながる つなげる 地域と学校 ～仲間と一しょに地域学校協働活動 入門編～	
方法	○参加者同士の交流活動の場を多く設定する。 ○学校支援活動に焦点をあてた内容を実施する。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	不安が期待に変わる！ ～聞いて、聞かせて推進員の胸の内～
	内容	アイスブレイクや推進員としての不安等の語り合いを通して、仲間づくりの素地を作る。
		内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
2	演題	活動が楽しくなるコミュニケーション術！ ～人とつながるコツが分かる！～
	内容	地域学校協働活動に関わる人たちをつなぐコミュニケーションスキルや、相手の話を引き出す話術について学ぶ。
		いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子
3	演題	子供たちは、地域の宝もの ～子供たちの瞳が輝くこと教えます！～
	内容	学校の実際の活動や学校が困っていることを知り、学校支援を中心とした活動につなげる。
		玉名市立玉陵中学校 校長 丸塚 慎一郎
4	演題	活動のヒントが満載！ ～上手くいっている事例には必ず理由がある～
	内容	地域学校協働活動の好事例をとおして、「活動のきっかけ・質の向上・継続に必要なこと」などを学ぶ。
		県統括コーディネーター 山平 敏夫
5	演題	仮想 地域学校協働活動 ～「やってみよう」を形にする～
	内容	やってみよう活動を参加者同士で考え、今後の実践のヒントとする。
		県統括コーディネーター 山平 敏夫

## 2 2年次の計画

講座企画			
テーマ	つながる つなげる 地域と学校 ～仲間といっしょに学び合いステップアップ!～		
方法	○受講生同士の横のつながりをつくるため、交流活動の場を多く設定するとともに、グループ編成についても工夫を行う。 ○学校支援活動に焦点をあてた内容を実施する。		
回数	演題・内容	講師	
1	演題	玉名市の素晴らしい取組を知る ～プラスワンのポイントは～	県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	玉名市で行われている地域学校協働活動の取組を知り、自校の取組にプラスワンを目指すためのポイントについて考える。	
2	演題	推進員井戸端会議（その一） ～あなたのノウハウ教えてください!～	
	内容	他中学校区（同校種）の方達と、それぞれの取組について意見交換を行うことで学び合い、疑問を解消する。	
3	演題	推進員井戸端会議（その二） ～その〇〇いただきます!～	
	内容	他中学校区（同校種）の方達と話し合い、自校の取組にプラスワンできることを考える。	
4	演題	学校と地域における感染症への理解	九州看護福祉大学 教授 嶋 政弘
	内容	安心した活動ができるよう感染症等について学習し、学校と地域における活動時の感染症対策への理解を深める。	
5	演題	学校支援活動から地域づくりへ ～次年度に向けてのステップアップ～	県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	他地域の地域学校協働活動の事例や地域づくりにつながる活動について学び、次年度に向けての構想を練る。	



2年次の成果と課題を踏まえ、学校支援活動から地域活動（地域づくり）へつなげる。

### 3 2年目の講座の実際

#### 【第1回】

講座の初めに、これまで玉名市で実施された地域学校協働活動の取組の整理が行われた。その後、受講者各自が「推進員としての取組で自慢できること」「担当している地域で自慢できること」について考えをまとめ、グループで活発な意見交換が行われた。

#### 【第2回】

「シグナルプランニング」の手法を用いて、地域学校協働活動の取組について「新しく始めたいこと」「これまでどおり続けていくこと」「やらなくてよいこと」の3つに分けて整理をした。整理することで考えがまとまり、今後の課題を新たに発見することができた。

#### 【第3回】

第2回講座で整理した内容をもとに「マイ行動プラン」の作成を行った。各自が「新しく始めたいこと」について、優先順位や行動開始時期、子供にどんな力をつけたいか等をまとめ、グループ内で発表し、互いに気づきやアドバイスを伝え合った。

#### 【第4回】

公衆衛生学を専攻する嶋教授から、感染症に関する専門的な講義があった。児童・生徒の活動時における感染症予防策について、感染症成立の条件等、科学的根拠をもとに学んだ。「根拠のない恐れ（誤った認識）は差別を生む」との講師の言葉に、正確な知識と情報の大切さを改めて考えさせられた。

#### 【第5回】

地域学校協働活動の取組内容を、学校支援活動から地域づくりへとつなげていくため、他地域の先進事例についての紹介があった。その後「地元で心を寄せ続ける子供の育成」をテーマとして、各自が取り組みたい内容を付箋紙に書き出し、グループ内で発表し、活発な意見交換が行われた。

### 4 2年目の成果と課題

#### 【成果】

各講座で伝え合う活動等、交流の場を多く設定したことで、参加者（地域学校協働活動推進員）同士の横のつながりを深めることができた。また、各自の活動内容の整理を行うことで、学校支援活動の充実（プラスワンの活動）につなげることができた。

#### 【課題】

各回で平均して10名程度の参加であり、本市の地域学校協働活動推進員全体（22名）で情報の共有や共通実践を行うことはできなかった。また、今年度の講座は、受講者同士の横のつながりづくりを重視していたが、推進員によっては、市全体での学習よりも、地域ごとの学習や関係づくりを重視されている方もおり、ニーズに合わない面もあった。

### 5 2年目以降の展開

地域づくりにつながる活動を中心にした講座を展開していく。また、受講者の増加を目指し、開講方法や活動内容、学習形態についても検討する。



意見交換を行う受講生



互いに考えを伝え合う受講生



山平県統括アドバイザー



九州看護福祉大学 嶋 教授



付箋紙に書いた考えを発表する受講生

### 第3章 県と市町村の連携事業

#### 3節「地域の人づくり講座」1年次経過報告

#### 【事例8】公民館関係者等の人材育成を目的とした講座（天草市）

##### 1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○講座開催内容において、幅広い世代に生涯学習の機会を提供する必要がある。</p> <p>○公民館講座の充実のため、さらに地域資源の活用を図ったり、各地区の公民館の情報交換を図ったりする必要がある。</p>



目 標
<p>地域学校協働活動との連携及び地域資源（人・もの・コト）を生かした特色ある公民館事業を展開できる人材の育成を通じて、幅広い世代に学習の機会を提供する「まなぶ、つながる、いかす」公民館を目指す。</p>



講 座 企 画		
テーマ	<b>天草の学びの拠点 「まなぶ、つながる、いかす」公民館 ～地域の魅力を生かす！ 公民館と地域学校協働活動のつながり～</b>	
方法	<p>○受講対象者は、公民館関係者及び地域学校協働活動推進員等とする。</p> <p>○学習形態は、講義形式とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	<p><b>演題</b> 天草の学びの場「まなぶ、つながる、いかす」公民館 ～地域の魅力を生かした 体験学習 in あまくさ～</p> <p><b>内容</b> 天草市が目指す生涯学習の推進、公民館事業について共有し、一体となって事業を展開する機運を高める。</p>	天草市長 馬場 昭治
2	<p><b>演題</b> 子供たちの学びを支える 公民館講座 ～公民館と地域学校協働活動との連携～</p> <p><b>内容</b> 公民館活動と地域学校協働活動の連携による公民館事業の事例と可能性について学ぶ。</p>	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
3	<p><b>演題</b> 事例に学ぶ！ 世代をこえて創る公民館講座 ～地域の課題解決と未来への学びをつなぐ～</p> <p><b>内容</b> 地域の課題解決と学校教育、まちづくりをつなぐ公民館講座の在り方について学ぶ。</p>	熊本大学 熊本創生推進機構 准教授 田中 尚人
4	<p><b>演題</b> 地域と学校をつなぐアイデア探し！ ～学びをつなぐ講座企画～</p> <p><b>内容</b> 地域の課題やニーズ、地域資源を生かした次年度講座を企画する。</p>	県社会教育課 参事 桑原 秀明
5	<p><b>演題</b> 教えます！ 人が集まるチラシ作成 ～魅力的なチラシづくりのために～</p> <p><b>内容</b> チラシ及び公民館だよりの作成等、効果的な情報発信の方法について学ぶ。</p>	株式会社 談 プランナー 甲斐 由貴



<p>1年次の成果と課題を踏まえ、2年次の計画を立て、公民館と地域学校協働活動が連携し、地域の魅力・特色を生かした公民館活動の充実を目指す。</p>
--



## 2 講座の実際

### 【第1回】

市長の講話を聴くことで、天草市が目指す生涯学習の推進と公民館活動の役割について共通理解を図り、各地区公民館が一体となって事業を展開する機運を高めることができた。受講生の感想には、「天草の子どもたちが生きていく将来を大切にするという未来志向の話に感激した。」とあった。公民館と地域学校協働活動が連携して、体験活動を通じた子供たちの学びや育ちを支援するという思いを高めることができた。

### 【第2回】

公民館活動と地域学校協働活動の年間計画を照らし合わせ、連携できる具体的な活動を考えるための手法やアイデアを学ぶことができた。また、子供たちの学びを地域で支える役割について考えるよい機会となり、今後の公民館事業と地域学校協働活動の関係を深めることのできる講座となった。

### 【第3回】

「あったらいいな、こんな公民館」のテーマで行われたワールドカフェ形式のワークショップの手法が参加者に好評だった。各地区の公民館職員と地域学校協働活動推進員の一人一人の思い、考えや意見が交わされ、受講生同士が世代を越えた公民館活動と地域学校協働活動の連携の可能性やアイデアを広げることができた。

### 【第4回】

新型コロナウイルス感染症の拡大による「まん延防止等重点措置」の発出により、講座を中止した。次年度の公民館講座のため、地域と学校をつなぐアイデア探しとなるワークショップ形式を計画していた。

### 【第5回】

新型コロナウイルス感染症の拡大による「まん延防止等重点措置」の発出により、講座を中止した。次年度の講座の広報のための魅力的なチラシ及び公民館だよりの作成等、効果的な情報発信の方法について学ぶ講座を計画していた。

## 3 1年目の成果と課題

### 【成果】

第1回の市長の講話をきっかけに、天草市10地区の公民館が地域の資源と魅力を生かした活動をどのように展開していくか、公民館の役割について共通認識を持つことができた。そのことが、公民館活動と地域学校協働活動の連携を深めることができた。公民館職員と地域学校協働活動推進員との交流が深まり、双方が連携した取組の必要性や、子供達の学びを地域で支える役割など、新たな活動のアイデアや方向性に気づくことができた。

### 【課題】

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、2回の講座を中止せざるを得なかったのは残念であった。今年度予定していた講座を含めて次年度の講座を検討する。また、講座での学びを公民館講座に生かすことも課題である。

## 4 2年目以降の展開

公民館会議等において次年度の講座の方向性について協議する等、公民館と地域学校協働活動推進員が連携し、地域の魅力・特色を生かした活動の実現に向けて取り組む。



天草市長のまちづくりへの思いを知る受講生



公民館と地域学校協働活動の連携の在り方について学ぶ受講生



世代をこえた公民館の取組を学ぶ受講生

【事例9】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（人吉・球磨10市町村）

1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○地域学校協働活動を推進していくための人材が確保できていない。 ○各市町村の地域学校協働活動の取組等を共有し、管内で一体となって推進を図る必要がある。</p>



目 標
<p>「子供が輝くまち 人吉・球磨」を目指して、地域学校協働活動推進員及びボランティア人材の発掘、育成を通して、人吉・球磨地域が一体となって継続的・安定的な地域学校協働活動の推進を図る。</p>



講 座 企 画			
テーマ	地域学校協働活動の有用性や可能性を理解するとともに、地域学校協働活動推進員等に求められる知識や技能を学び、活動の実際に生かそうとする態度を養う。		
方法	○受講対象者は、地域学校協働活動推進員等及び学校支援関係者とする。 ○学習形態は、講義とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。		
回数	演題・内容	講師	
1	第一部 演題	<b>注目！地域学校協働活動の今！ ～学校と地域が学びの未来をつくる！～</b>	県社会教育課 参事 桑原 秀明
	内容	地域学校協働活動の有用性や可能性、地域学校協働活動推進員の役割を学ぶ。	
	第二部 演題	<b>推進員に求められていること ～私にできること みんなでできること！～</b>	県社会教育課 県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	学校運営協議会との連携を含めた地域学校協働活動推進員の役割やCSの事例等を学ぶ。	
2	演題	<b>地域学校協働活動が楽しくなるコツ！ ～心の距離を近づけるコミュニケーション術～</b>	いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子
	内容	学校、行政職員、ボランティア、子供や保護者等をつなぐコミュニケーションスキルや、様々な支援方法を学ぶ。	
3	演題	<b>みんなの第一歩で 子供が輝くまちへ ～天草の3年間の歩みから～</b>	天草市 地域学校協働活動推進員 統括コーディネーター 向 博俊
	内容	子供の姿や先進地事例の段階的な取組事例や地域一体として地域学校協働活動を推進する仕組みを学ぶ。	
4	演題	<b>地域学校協働活動を仮想体験！ ～「やってみたい」をカタチにする～</b>	県社会教育課 県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	やってみたい活動を参加者同士で考え、今後の実践のヒントにする。	



<p>1年次の成果と課題を踏まえ、2年次に向け、地域学校協働活動に係る各地域の課題やニーズに応じた先進地事例やワークショップ形式による学びの場や情報交換の場を設定する。そして、継続的・安定的な地域学校協働活動の仕組みづくりを目指す。</p>
--

## 2 講座の実際

### 【第1回】

第1部では、地域学校協働活動推進の概要や必要性、県内の取組状況について、理解を深めることができた。受講者からは、「1人の100歩より100人の1歩」という言葉が印象に残ったと感想があり、地域学校協働活動を進めていく上で、地域と学校が連携・協働し、多くの人に関わって取り組む必要があることを学んだ。

第2部では、学校支援活動から「子供が育つ地域学校協働活動」に向けて、既存の活動からプラスワンの活動にブラッシュアップする視点を学んだ。受講者からは、「子供を中心にプラスワンの活動を考えていきたい。子供も周りもハッピーになる活動をしたい!」「1人で考えるより様々なアイデアを聞けて参考になった。」と感想があり、ワークショップ形式の情報交換は大変有効だったことがわかる。

### 【第2回】

心の距離を縮めるコミュニケーションの基礎を学んだ。受講生は、マナーには決まりがなく、相手が気分を害さないようにする「心配り」の大切さを学ぶとともに、具体的な会話スキルやパーソナル分析による対話を学ぶことができた。受講生からは、「個人の特性を理解してその人に合った対応をすることが大切だと思った。」という感想があった。

### 【第3回】

球磨管内「地域と学校の連携・協働」推進実践交流会と関連を図って実施した。前半の実践交流会では、他地域から天草市の地域学校協働活動推進員が班別協議に参加し、情報交換を行った。後半の講座では、「段階的な取組」「地域一体として推進する仕組みづくり」等、天草市の3年間の歩みを学んだ。受講者からは、「それぞれの学校の地域学校協働活動推進員が連携して天草の人づくりに取り組んでいた。人吉・球磨でも連携して取り組みたい。」「地域の特色がうまく活用され、地域学校協働活動推進員として整理する必要性を感じた。前向きな気持ちになった。」と感想があり、受講者の意欲の向上につながった。

### 【第4回】

新型コロナウイルス感染症の拡大による「まん延防止等重点措置」の発出により、講座を中止した。各推進員が担当する地域において、「やってみたい活動」を参加者同士で考え、今後の実践のヒントにするワークショップ形式の講座を計画していた。

## 3 1年目の成果と課題

### 【成果】

人吉・球磨地域の市町村の取組状況や課題を共有するとともに、先進地の事例に学ぶ非常に有意義な講座となった。地域一体となって、今後の地域学校協働活動の在り方を確認することができた。

### 【課題】

10市町村での共同開催であったため、各市町村のニーズに対応するテーマや講師の選定が難しかった。人材確保については共通の課題であることが分かった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、最後の講座を中止せざるを得なかったのは残念であった。今年度予定していた講座を含めて次年度の講座を検討する。

## 4 2年目以降の展開

人吉・球磨地域が一体となって、先進地の事例に学びながら、地域学校協働活動推進員及びボランティア人材の発掘と育成、継続的・安定的な地域学校協働活動の推進を図る。



地域学校協働活動とその現状を学ぶ受講生



「プラスワンでブラッシュアップ」の演習  
に取り組む受講生



パーソナル分析について学ぶ受講生



天草市の地域学校協働活動推進員の実践発表



## 第4章 生涯学習コーディネーター養成講座

### 【事例1-1】生涯学習（新任等担当者編）

#### 1 テーマ

チャレンジから生まれる地域づくり  
～やりたいことを形にするコツを伝授～

#### 2 概要

生涯学習の意義や担当者に求められる資質・能力について知り、地域の生涯学習に係る事業を企画、運営する上でのポイント等を学ぶ。

#### 3 日時

##### (1) 県北会場

令和3年（2021年）7月14日（水）  
午後1時15分～午後3時35分

##### (2) 県南会場

令和3年（2021年）7月12日（月）  
午後1時15分～午後3時35分

#### 4 会場

(1) 県北会場 菊池市中央公民館

(2) 県南会場 八代市公民館

#### 5 講師

菊池市教育委員会 中央公民館長 吉川 良二 氏

#### 6 講座内容

##### (1) 社会教育・生涯学習の意義・役割（関係者として大切にしたいこと）

社会教育・生涯学習の意義・役割とは、社会の変化を構成する、技術革新、思想の変革、システムの変革、人々のライフスタイルの変革等に対して、現状がどの状況にあるのかを分析・診断して、変化に適応し、未来につなぐ手立てを施すことであると考える。

関係者として大切にしたいこととして、「4つの目」がある。「虫の目」で現場を見て事実をつかみ、「鳥の目」で大局を見て判断し、「魚の目」で時流を読み取る。そして、「心の目」は理念等を基にした価値判断の基準となり、「虫の目」「鳥の目」「魚の目」を支える強い意志の力となる。この「4つの目」を大切に物事を捉え、業務に取り組んでほしい。



【社会教育・生涯学習の意義・役割について学ぶ参加者】



【グループワークでアイデアを書き出し、形にしている様子】

<b>【虫の目】</b> ※五感をフル活用してみること ⇒多面的理解(実態把握)	<メリット> ○現場の実態を詳しく把握できること <デメリット> ●近くは詳しく見えるが全体が見えない (近視眼的理解)
<b>【鳥の目】</b> ※広範囲に高いところから俯瞰する ⇒ 大局的理解	<メリット> ○全体感から根本的な課題の把握、問題意識を持てる ○全体の優先順位が判断できる <デメリット> ●虫の目のように詳細の把握が難しい
<b>【魚の目】</b> ※社会の流れを感じ取り、未来を察知できる	<メリット> ○歴史の流れの中で、「未来を観て、現在を知る」、また「現在を確認しつつ未来を観ること」で判断することができる <デメリット> ●現実感が乏しくなる
※「虫の目」と「鳥の目」で日常的な判断を行う ※「虫の目」と「鳥の目」と「魚の目」で、未来に向かう重要な方向性等を判断する	

【関係者として大切にしたい「4つの目」】



(2) 社会の変化（コロナ禍が生み出したもの）

これからの子供たちが生きる未来は、少子高齢化により生産年齢人口は約半数に減少し、グローバル化、情報化、そしてAI（人工知能）化等により、変化が激しく予測困難な未来となっていく。また、近年のコロナ禍は、平成時代に見え隠れしていた「教育格差」「地域格差」等の、格差社会の現実を明らかにした。

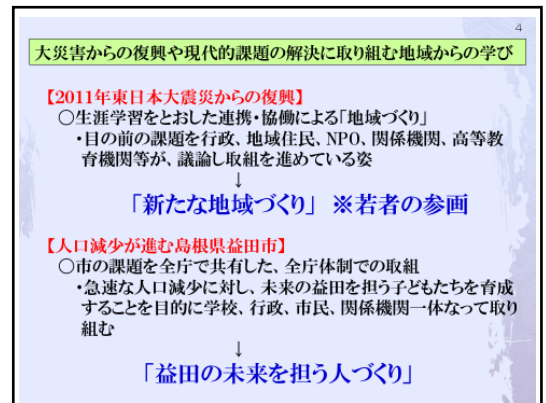
令和の時代は、「格差の存在を認め、それを踏まえて新しい形の社会をみんなで創っていく時代」である。その大きな力となるのが社会教育・生涯学習である。

(3) やりたいことを形にするために

ポイント1

○現状把握と方向性の確認

- ① 自治体の現状、各施設等を把握する
  - ・自治体の総合計画、各種計画、基本データ等のエビデンス
- ② 国、県の動向を把握する
  - ・関係法の改定
  - ・中教審生涯学習分科会の答申や提言
  - ・各種基本計画や施策等



【事例から見る、社会教育が持つ大きな力】

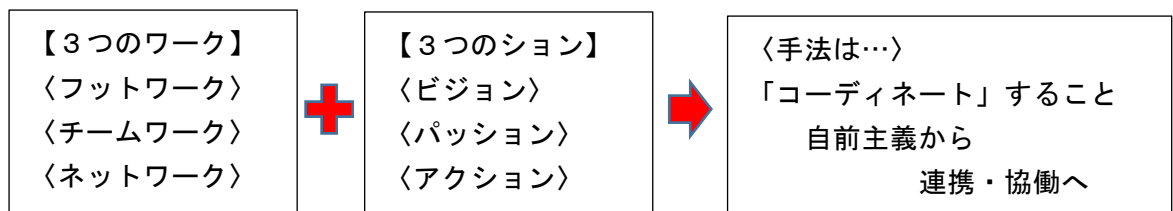
ポイント2

○目的意識と対象者意識、そして、戦略

- ① めざす姿をどう設定するのか      ② 誰を中心対象者とするのか
- ③ どこ（機関・団体等）を活用し、どう進めていくのか

ポイント3

○「3つのワーク」と「3つのシヨン」



講師から最後に…

○「できない理由」より「できる方法」を探す

- ・変化の激しい社会、コロナ禍にある状況でも「学びを止めない」ことが大切

(4) グループワーク

「背景にあるもの」「目的」「対象者」「戦略」の4つの視点を意識して、グループで事業（イベント）の企画を考え、やりたいことを形にした。

【受講者の声（アンケートより）】

- ・生涯学習の重要な役割、理念が大切だと感じた。今後の業務に生かしていきたい。
- ・事業企画は4つの視点で具体的に考えると整理しやすかった。
- ・社会の現状、変化を把握することの大切さを改めて認識することができた。
- ・生涯学習は、企画、運営、地域づくりと幅広く、チャレンジの気持ちが大切である。

【事例 1 - 2】生涯学習（統括的な推進員編）

1 テーマ

子供も地域も元気にする地域学校協働活動  
～あなたが地域のキーパーソン～

2 概要

(1) 統括的な推進員に求められていること  
地域学校協働活動の推進状況や統括的な推進員の役割について知り、取組の見直しや今後の活動の方向性等について学ぶ。

(2) 活動のブラッシュアップに挑戦

C Sと地域学校協働活動の一体的推進のための整理や見直しの方法及び地域学校協働活動推進員等の育成のための研修の企画等について学ぶ。

3 日時

令和3年（2021年）7月26日（月）  
午後1時15分～午後3時35分

4 会場

くまもと県民交流館パレア 10階 パレアホール

5 講師

熊本県社会教育課 社会教育主事 井上 哲  
県統括アドバイザー 山平 敏夫

6 講座内容プロジェクト

(1) 統括的な推進員に求められていること

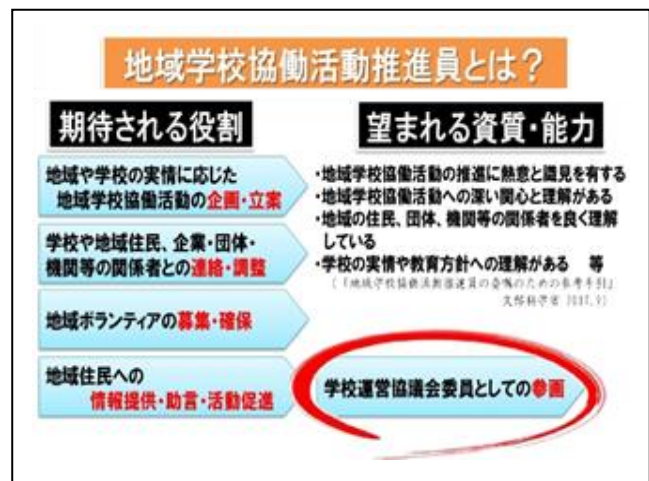
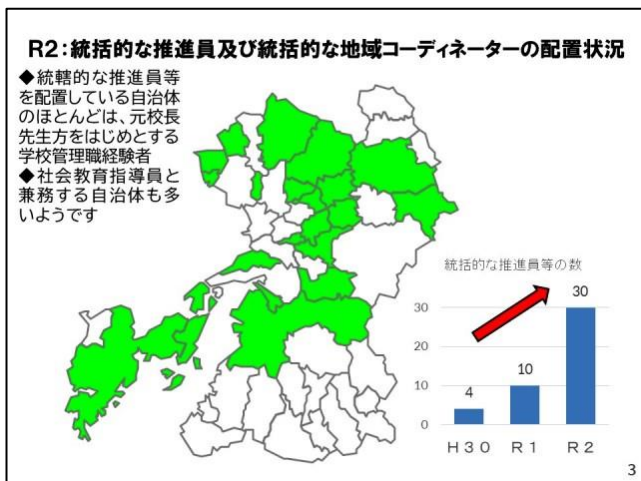
市町村の統括的な地域学校協働活動推進員等や各教育事務所の社会教育主事が、地域学校協働活動の推進状況や統括的な推進員に期待される役割について情報を共有する必要がある。そうすることで、今後の活動の方向性や取組が確かなものになる。



【講話：活動のブラッシュアップに挑戦】



【研修企画シートの作成】



# ①CSと地域学校協働活動の一体的推進について



【CSと地域学校協働活動のPDCA】



【子供を主体としたPDCA】

演習シートを用いて、各地域の学校の教育課題や教育資源等に応じて、CSと地域学校協働活動の一体的推進のPDCAサイクルを整理したり、見直したりすることは有効である。CSと地域学校協働活動が考えるPDCAと子供を主体としたPDCAが重なり合うように回っていること、子供たちの学びや育ちの連続性を意識すること、PDCAサイクルの中で小さな成功体験を関係者で共有していくことが大切である。



【PDCAシートを紹介し合う受講者】

# ②地域学校協働活動推進員等の育成について

地域学校協働活動推進員等の資質向上のために市町村で研修の場を持つことの重要性を知るとともに、演習シートを用いて、地域学校協働活動推進員等育成のための研修プログラムの企画・立案を行った。

各市町村の推進員等の育成について、短期的・中期的・長期的な計画及び初級・中級・上級といった段階的な研修の機会を用意することで、より質の高い学びとなる。さらに、研修は、講義、熟議、ワークショップ、事例研究、先進地研修等、様々な形式を取り入れることが大切である。

**研修企画例1**

**【研修企画シート】**  
 対象：推進員、志の在る人  
 ねらい：推進員の資質を高める  
 テーマ：コーディネートの技量を中心に高める

時間(目安)	実施内容	留意点・準備物
1	【公開講座】「〇〇市町村における学校と地域の連携を考える」 ①オリエンテーション ②「推進員の役割と意義」等の講義 ③グループワーク	留意点・準備物 学校管理職も参加 希望者も可
2	【事例発表・ワークショップ】「事例から学ぶ推進員の活動」 ①事例を聞く。 ②ワークショップ(先輩推進員への質問形式)	
3	【公開講座】「子供たちの豊かな学びのために～推進員としての活動～」 ①学校や地域住民と関わる為のマナー講座 ②ワークショップ(コミュニケーション)	
4	【ワークショップ】「活動プランを考える」 ①講義「活動プランの立て方のコツ」 ②ワークショップ「活動プランづくり」	
5	【活動状況報告会】 ①学校ごと活動パネルを提示する(一体的推進のコーナーも含む) ②パネルをみての自由交流 ③講義「学校と地域をつなぐために」	学校管理職の参加

【研修企画シート】

## 【受講者の声(アンケートより)】

- ・ 統括的な地域学校協働活動推進員として、特にPDCAサイクルを意識した取組の重要性を改めて感じた。
- ・ 意見交換を通じて、各市町村の取組を知るとともに、推進状況については大きな差があることを感じた。自分の立場でできることを見直し、実践につなげたい。
- ・ PDCAサイクルと研修計画を作成してみて、企画の難しさを改めて感じた。推進員の方も悩まれるはずなのでさらに研修を進めなければいけない。



## 【事例2】デジタル・ディバイドの解消

### 1 テーマ

デジタル・ディバイドの解消のために私たちにできること  
～今、求められるICT活用講座の企画と運営方法～

### 2 概要

デジタル・ディバイドの解消に向けたICT活用講座の企画について学ぶとともに、オンライン講座等の運営方法を学ぶ。

### 3 日時

令和3年（2021年）7月21日（水）  
午後1時00分～午後4時10分

### 4 会場

くまもと県民交流館パレア10階  
パレアホール



【ICTの活用方法を学ぶ参加者】

### 5 講師

アビリティスクール・マリオネット 代表取締役 村上 奈美 氏

### 6 講座内容

#### （1）高齢者の関心が高い講座

##### ①Android入門／iPhone&iPad入門

- ・対象者：50代～80代（人に言われてスマートフォンに変更した方等）
- ・内容：基本操作、アプリの取り方、ネットの使い方、カメラの使い方等
- ・配慮事項：直前に買って持ってくる方、専門用語の理解が困難、復習が重要等

##### ②LINE入門／活用

- ・対象者：50代～80代（LINEを始めるよう家族や友達に言われた方等）
- ・内容：登録方法、プロフィール設定、各種送信方法、ブロックと非表示等
- ・配慮事項：文字入力ができない参加者、習得に時間がかかる等

##### ③Zoom導入

- ・対象者：40代～80代（町内会等でZoomが必須になった方等）
- ・内容：Zoom説明、アプリのインストールと登録、参加体験、ホスト体験等
- ・配慮事項：パソコン等の操作に不慣れな方はストレスを感じる、会場のWi-Fi環境に注意等

#### （2）その他受講者のニーズが高い講座

##### ①Officeスキルアップ講座

対象者：高齢者、再就職希望者、学校でPCを学んでいない世代、企業研修等

- ・Word入門（目的別での募集や告知が必要）
- ・Excel入門（検定3級レベルまでのレクチャー）
- ・検定試験対策（コンピュータサービス技能評価試験2級・3級）
- ・PowerPoint入門
- ・見やすい資料の作り方セミナー

## ②プログラミング関係の講座

- ・親子プログラミング体験教室（タブレット使用）  
プログラミングの考え方（行動の分析）を保護者にも理解してもらう。
- ・ジュニアプログラミング検定対策（小学校4年以上）  
Scratch（スクラッチ）の基本操作、検定対策問題の説明と解き方等。
- ・子どもロボット教室（幼稚園年長以上）  
教育版LEGO®WeDo®を使用したロボットの作成等。
- ・JavaScriptふよふよプログラミング（小学校5・6年生）  
プログラミングの基本習得「写経」等。

## （3）今後必要となる講座

### ①スマートフォン講座の細分化

- ・スマートフォン基礎＋アプリに特化した講座  
ゲームアプリを使用した健康増進イベント（地域おこし等）。
- ・スマートフォン基礎＋サービスに特化した講座  
各市町村公式LINE使用方法、ハザードマップオンライン化等。

### ②高齢者向けeスポーツ講座

指先を使うことで脳の活性化、認知症予防などの効果がある。現在は募集ではなく、高齢者介護施設やケアセンターなどの取組として行っている。

### ③LINEWORKS導入

回覧板や町内会、子ども会、PTAなどをLINEWORKSに集約する。

## （4）Society 5.0へ向けての知識

### ①IoT（Internet of Things）

遠隔操作（監視）やデータの収集を目的に、「物のインターネット」と呼ばれ、すでに普及が始まっている。コンピュータや情報機器だけでなく、社会に存在するあらゆる機器に通信機能を持たせてインターネットと接続する。

### ②M2M（Machine to Machine）

機械同士が人間を介さず、高度な制御や動作を行う。正確でリアルタイムな制御をモノ同士で“完結”することがM2Mの本質である。

## （5）講座企画のポイント

講座企画の考え方として、①困っていることにICTで対応する ②機械の不満を聞き出す ③便利なものを聞き出す ④面白そうなもの、流行っているものを探す ⑤世界へアンテナをはる等が考えられる。開催方法についても「色々な形でのオンライン配信」「後から見られる限定アーカイブ配信」等があり、受講後のアンケートをオンラインで実施することもできる。

### 【受講者の声（アンケートより）】

- ・小学生から高齢者まで、講座を世代別でできないかと考えていたので参考になった。
- ・職場の方と何度か実践をして、市民に講座ができるようにレベルアップしたい。
- ・講座の運営だけでなく、会議にも使えそうである。資料も活用させていただく。
- ・これまで独学だったがよく理解できた。遠方の来館できない人に講座を届けたい。

### 【事例3】まちづくり

#### 1 テーマ

あなたのまちが活性化！～ひと・モノ・コトをつなぎ、生かす仕組みづくり～

#### 2 概要

地域の課題解決のために必要な手法（地域素材活用、人材育成、関係機関との連携等）について先進地の事例等から学び、市町村の人づくり、地域づくりに生かす。

#### 3 日時

令和3年（2021年）9月10日（金） 午後1時00分～午後4時30分

#### 4 方法

オンライン形式（Zoom）

#### 5 講師

##### 【コーディネーター】

熊本大学熊本創生推進機構 准教授 田中 尚人 氏

##### 【先進事例発表】

沖縄県 NPO法人地域サポートわかさ 若狭公民館 館長 宮城 潤 氏

静岡県 富士宮市立柚野公民館 職員 佐藤 隆夫 氏

熊本県 認定NPO法人カタリバ パートナー 井下 友梨花 氏

熊本県 熊本大学大学院 自然科学教育学部 2年 高良 幸作 氏

#### 6 講座内容

##### （1）講義「ひと・モノ・コトをつなぎ、生かす仕組みづくり」

熊本大学熊本創生推進機構 准教授 田中 尚人 氏

持続可能なまちづくりには、自分たちのまちは自分たちでつくっているという「シビックプライド」とともに、SDGsの17の目標以上に「どのように取り組むか」が大切である。その中でも、特に「『誰一人』取り残さない」「全ての人に役割がある」「社会・経済・環境に統合的に取り組む」ことが重要である。また、持続可能（サステナブル）の本質は変わり続けることであり、不易と流行の両方を大切にしてほしい。

熊本地震を振り返りながら、これからの公民館の役割についての座談会を開いたところ印象に残る言葉がたくさんあった。「全部はできないから、無理せずできることを」「普段から挨拶できるつながり」「いろいろな人が公民館に関わることができる環境づくり」「公民館には、生涯学習や社会教育以外のことを担っていける可能性がある」などである。

みんなで何かを一緒にやるという共通体験・共同体験が大切だと思う。今回の講座では4つの事例紹介があるので、話をよく聞いて自分の言葉で返してほしい。そして、「まちづくり」と言わない、まちづくりについて考えてもらえればと思う。



## (2) 先進事例発表

### 事例1 「魅力ある楽しい公民館活動～合言葉は とりあえず、若狭公民館へ！～」

NPO法人地域サポートわかさ 若狭公民館 館長 宮城 潤 氏

#### ◆取組の実際◆

地域課題が多様化・複雑化する現代において、課題解決のための「特効薬」はない。そのため、地域住民が自発的・主体的・継続的に活動し続けることが重要である。そこで、本公民館が活動する上で大切にしていることが3つある。

1つ目は、「地域課題×活動の魅力」である。地域課題に向き合うだけでは、無理が出てきたり、活動が継続できな

ったりする場合が出てくる。課題に向き合いながらも活動自体を楽しむことで、少しずつ状況が変わっていくと考えている。「防災×キャンプ」「多文化共生×音楽・ダンス・食」「公民館×アート」など、地域課題に活動の魅力をかけ合わせて企画した。具体的には、すべての人に開かれた防災プラットフォーム、在留ネパール人との交流、移動式屋台型公民館（パーラー公民館）等を行った。

2つ目は、「多様な主体との協働」である。取組を進める中で出会った様々な個人・機関・団体との連携・協働が生まれ、発展していった。それぞれの思いや特性を生かした協働によりエンパワーメントされ、コロナ禍でも自発的・主体的な活動が生まれている。

3つ目は、「(やりたい人に) 寄り添い、背中を押す」である。公民館が後方支援を務めることで「自治を育む」ことにつながる。

公民館の「つどう」「まなぶ」「むすぶ」という役割を発揮することで、住民の自治能力の向上に寄与することができる。



### 事例2 「おいしい富士山プロジェクト～おむすびで富士山を作ろう～」

富士宮市立柚野公民館 職員 佐藤 隆夫 氏

#### ◆取組の実際◆

本プロジェクトは、「富士山の日（2月23日）」に富士宮市の小中学校が休校となるため、子供の居場所づくりを目的に平成31年にスタートした。地域学校協働本部のコーディネーターや地区社会福祉協議会代表と話し合い、子供と地域の大人と一緒に活動できる柚野の里らしい事業をとということから「おむすびで富士山を作ろう」に決定した。また、地域づくりにつなげるという視点から「世代間交流」「他団体との連携・協働」「地元産食材の活用」「ボランティアによる運営」をキーワードに計画した。その際、子供たちやボランティアの方々が充実感・満足感を味わうこと、やってよかったと実感できることを大切にした。

当日は、13の係で役割分担し、みんなでおむすびの富士山作りを進めた。完成したお



むすびを全員で並べ、青空に映える雪をかぶった富士山を表現した。その後、富士山をバックに写真撮影、地域のお年寄りを招待して昼食会まで行った。

本事業のように、多様な人々を巻き込んでいくことは、公民館が「地域住民の絆づくり」「人材育成の場」になるために不可欠である。そのためにも、日頃から地域住民とのコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことが重要である。今後は、参加がなかった世代への情報発信や学校教育との融合を図ることに努めたい。

### 事例3 「地域のつながりと減災・防災～平成28年熊本地震・令和2年7月豪雨の支援活動を通して～」

認定NPO法人カタリバ パートナー 井下 友梨花 氏

#### ◆取組の実際◆

熊本で起こった2つの自然災害発生後の支援の流れを伝えながら、災害時に活きた「日頃からできること」は何かということについて考えたい。

#### 平成28年熊本地震

- 4月 14日、16日 発災
- 5月 教育委員会へヒアリング、学校再開に向けた座談会、学校再開
- 6月 避難所学習会見守り、学校内での朝・放課後学習会
- 7月 益城町の教育の未来を考える会
- 8月 夏の勉強合宿 in 天草
- 11月 職場体験学習、仮設団地で夜間学習会

#### 令和2年7月豪雨

- 7月4日 発災、当日夜に緊急ミーティング
- 5日 スタッフ合流
- 6日 現地調査（八代、芦北）  
県教委と打ち合わせ
- 7日 現地調査（人吉）、市教委と打ち合わせ
- 8日 カタリバパーク開設準備・チラシ配布
- 9日 活動開始



令和2年7月豪雨災害への対応が早かったのは、災害が起こる前から、災害に備える部署を立ち上げ、多くの関係団体とのつながりをつくっていたためである。また、過去に出会った方々が現地でサポートしてくれたり、現地にいない全国の仲間がサポートしてくれたりしたことも多くあった。子供たちを支援する活動は、現在、学生団体や地元のキッズサークルに引き継がれている。

以上のような体験を通して、私が考える災害時に活きた「日頃からできること」は2つある。1つめは、手段を目的化しない（対話を重視する）ということ。分刻みで変わっていく状況の中でそれに応じて対応することが求められた。「去年こうだったから…」ではなく「こうしたらもっと楽しい」と考え続けることが大事である。2つ目は、友だちを大切にすること。多くの場で様々な方に助けられたという経験から、このことを伝えたい。

### 事例4 「わがまちのプロジェクト～若者のアイデアが創り出す新たなまちづくり～」

熊本大学大学院 自然科学教育学部 2年 高良 幸作 氏

#### ◆取組の実際◆

熊本地震の記憶を継承し未来に伝えるためのワークショップ「水の国くまもと未来予想



図プログラム」(計4回)に参加した。参加者は、熊本県内の大学に通う学生10名。学生たちのミッションは、①熊本地震からの復興の「今」を知る ②復興とは何かを考え、地域の日常を学ぶ ③チームで、未来に向けて課題解決提案を行う、さらに成果物として、3分の動画作成と課題解決提案(プレゼンテーション)を行う、というものだった。

京都大学防災研究所 教授 矢守克也氏をはじめとした講師陣からアドバイスを受け、取組をスタートした。

参加者は3つの班に分かれ、益城町、嘉島町、御船町で現地取材を行い、地域住民へのヒアリング等を通して、それぞれの町が抱える課題を把握した。その後、各班で課題解決のためのテーマを設定し、「ポスターで震災の記憶を語り継ぐ」「家族や地域をつなぐ笑本(絵本)」「小中学生が作り伝える震災アーカイブ」の取組を進めた。活動を通して、学生のみで活動することの難しさを感じる場面もあったが、震災をきっかけに学生と地域住民がつながることは、両者にとって必要不可欠だと感じた。最後に、対象地域の役場や県庁での発表を行い、行政担当者や副知事から提案に対して感想をいただき貴重な機会となった。

震災経験の有無にかかわらず、若い世代が災害を自分事として捉え、関わり、継承していくことが一番の防災になると思う。また、災害を語ることは難しいことかもしれないが、日常の豊かさに気づく上でとても大事なものと気づくことができた。

### (3) パネルディスカッション

#### 「もっと知りたい!ひと・モノ・コトのつなぎ方、生かし方」

#### ◆話題になったこと◆

- ・まちづくりは誰にでもできるもの。一人で考えてやるのではなく、誰かと一緒に(世代を超えて)、違いを認め合い、変化を楽しみながら、楽しく続けることが大切。どこかに答えや特効薬はない。
- ・物事を起こすときのポイントは、「がんばりすぎない」こと。あえてテーマを設けず何もしない場を確保し、そこに集う人同士でゆるくアイデアを出し合うこと、入りやすく出やすいつなぎりづくりをすることを意識した。
- ・事業を続ける時に気を付けたことは、参加者一人一人に役割を決め、任せて充実感を持たせることであり、「やってよかった」「またやりたい」と思ってもらえるようにすること。
- ・「信頼関係」がキーワード。つながりがあるからこそ、大きなイベントを開催することも可能になるし、非常時にも生かされる。日常的につながっていなくても共通体験があることや共に心が動いた経験があることが生きてくる。
- ・世の中が、自然災害やコロナ禍でつながりの大切さを感じている。そのような中で、



周りの人とのつながりが薄く、実は困り事を抱えているという人たちがいる。想像力を働かせ、見つけようとするのを忘れてはいけない。社会教育に携わる者として、見えている人との心のつながりだけでなく、つながりのない人たちや見えていない人たちがいる、ということのを常に意識しておくことが必要である。

- ・ 公民館だけが公民館ではない。河原や公園が公民館的场所になる可能性がある。
- ・ 自分がやりたいことをどんどんやるのではなく、誰かがやりたいことを形にする方がその人にとって成功体験になる。その体験を重ねることで「次もやってみたい」が広がっていく。「やってみたい」があちらこちらで形になることが、持続可能性という意味でも楽しいまちになると感じている。
- ・ 今回の骨子は「誰かの『やりたい!』をかなえる場づくり」である。居場所はただの「場所」でない。そこに「人」がいるから交流が生まれる。その役割を担うのが、本講座に参加している生涯学習コーディネーターの皆さんだと思う。

#### (4) まとめ

熊本大学熊本創生推進機構 准教授 田中 尚人 氏

コロナ禍のオンライン講座をぜひ充実させたいと考えていた。これまで無味乾燥な場になりがちだったネット越しの交流を、どうにか変えたい、みんなの思い出にしたいと考えてきた。やはり「一期一会」が大事で、様々な立場の方がここに集っていて、たまたま一緒になった。それも御縁だと感じている。講座を受ける中で、一人でも二人でも「私たちがこれからやることってこんなことなのね。楽しそう。」と思ってもらえたらいい。「無理をしない」「笑顔が大事」など、誰でもできることしか言っていない。それぞれの立場で、これまでそれぞれがやってきたことを信じ、つながりを大切にしながら進めていくしかない。何もないところで何か始めてみることや、「この世の中をよくしたい」という覚悟で一歩踏み出してほしい。

#### 【受講者の声（アンケートより）】

- ・ 様々な立場の人の発言の中に大切なキーワードが見つかったのがよかった。特に、何かを企画する際の「課題×魅力」の部分は、今後に活かしていきたい。
- ・ 特定の分野に狭めず、多様な分野で場を提供することで、人と人をつないだり、役割を持たせてやりがいを生み出したり、することができる。「生涯学習」というテーマは幅が広いと感じた。
- ・ 「自分から活動を作るのではなく、誰かがやりたいことを広げて形にしていくことが大切」というお話が心に残った。人と人とを繋ぐ場所や機会を作り出し、そこから生まれてくるアイデアを実現するために、後方から支援していくことが必要だと感じた。

## 第5章 先進地事例紹介

【事例】ICTを活用した取組

### 「オンライン公民館熊本」

～ともに学び合い、つながり合う場～



#### すぐに活用できる仕組み

～各地域の講師の発掘養成と立場や地域を超えたつながりづくり～

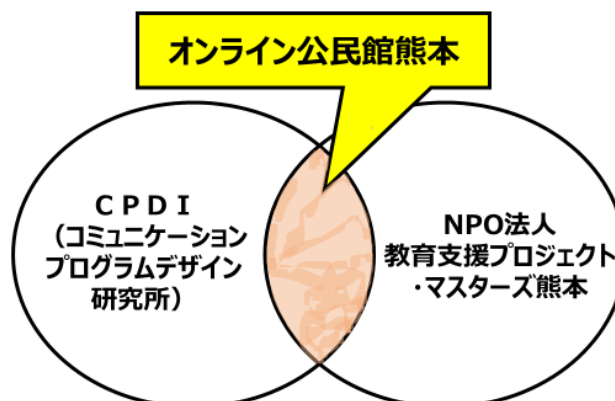
効果① 各地域の講師に案内することで、学びとつながりづくりの場を提供できる。

効果② 参加と交流をとおして、情報交換や、立場・地域を超えたつながりが生まれる。

#### ■事業の目的

～ともに学び合い、つながり合う場の提供～

コロナ禍において様々な講座が中止になり、学びの機会が激減した。そのような中、福岡県久留米市の民間主導の「くるめオンライン公民館」や、全国的なネットワークの「オンライン公民館ジャパン」の取組をヒントに、熊本県においても、CPDI（コミュニケーションプログラムデザイン研究所）とNPO法人教育支援プロジェクト・マスターズ熊本が共同して運営する形で「オンライン公民館熊本」が誕生した。



「オンライン公民館熊本」では、テーマを「ともに学び合い、つながり合う場の提供」と掲げ、①ウィズコロナ、アフターコロナ時代の地域や住民の学習活動を円滑にする、②新しい時代の民間による主体的な学習の在り方を模索する、③地域の指導者、ファシリテーターの発掘養成と市町村への講師紹介を行う、の3点を目標に活動している。

#### ■事業の仕組み

～オンラインを活用した「講師養成（入力）・学習成果活用（出力）」

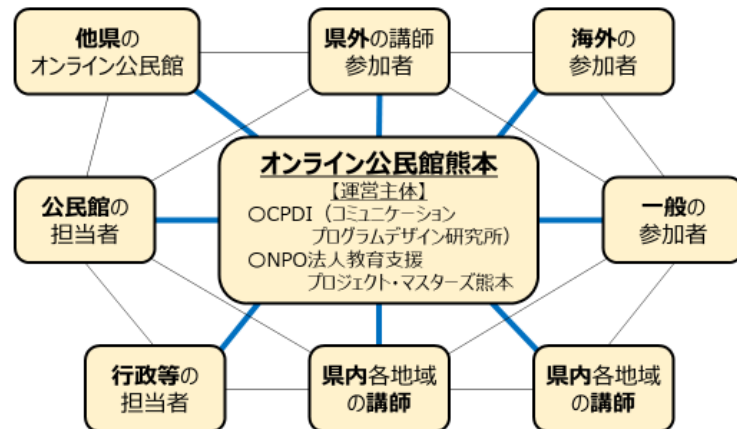
・参加者とのつながり（交流）」のバランスの良い活動の場～

オンライン公民館は、Zoomミーティングを使用して月1回程度開催される。参加希望者は運営者よりミーティングIDとパスコードを受け取り参加する。現在は、各地域で活動している生涯学習講座の講師の方々が参加している。

活動の主となる勉強会では、「ファシリテーションサークル」、「プレゼンサークル」、「エンタテインメントサークル」等があり、各回、テーマを設けて開催される。その中で参加者は、参加の仕方を自由に選択できる。例えば、発表や講演の練習をして経験を積むこともできるし、見

るだけ聞くだけという学び方もある。また、他の参加者との交流をとおして、相談や情報交換、つながりづくりも行うことができる。

参加者のニーズや主体性を大切にして、「講師養成・学習成果活用・参加者とのつながり」のバランスのよい活動の場を目指している。



**■ 仕組みによる効果**  
 ～講師のスキルアップ、地域を超えたつながり、デジタル・ディバイドの解消～

令和3年8月の事業開始であり、まだ日は浅いが、参加者の各種スキルは確実に成長している。また、オンライン公民館に参加したことで参加者同士のネットワークも広がり、直接的な交流も始まっている。ICTを活用した講座の運営スキルの向上にもつながっており、オンライン公民館の参加者が互いにサポートしながら講座運営を行うケースも生まれている。

現在、勉強会を中心に活動を行っているが、今後、行政や公民館等の担当者の参加が増えることで、それぞれの立場や地域を超えた新しい学び方やつながり方が期待される。

**■ 「オンライン公民館熊本」のこれから**  
 ～各地域で活動する講師への案内・相談や情報収集の場の提供～

行政職員は、各地域で活動する生涯学習の講師等にオンライン公民館を案内することで、学びとつながりづくりの場を提供することができる。特に、経験年数が少ない講師やコロナ禍で活動を十分に行うことができていない講師には、学習成果活用の場を提供することにもつながる。

運営者は講師派遣を行っていないが、行政職員自身が参加することで、運営者や参加者のネットワークが持つ情報の中から、市町村の実情に応じた講師の情報を得ることができる。また、生涯学習講座の企画の相談や運営のサポート、他地域や多様な参加者とのつながりづくりにも活用できる。

「オンライン公民館熊本」の詳細

目 標	「ともに学び合い、つながり合う場の提供」を活動のテーマとして、①ウィズコロナ、アフターコロナ時代の地域や住民の学習活動を円滑にする、②新しい時代の民間による主体的な学習の在り方を模索する、③地域の指導者、ファシリテーターの発掘養成と市町村への講師紹介を行うことを目標に活動する。
対象者	各地域で活動している生涯学習講座等の講師、行政関係者、公民館職員、生涯学習に興味のある方、講師を目指したい方 等
運 営 代表者	・ NPO法人教育支援プロジェクト・マスターズ熊本 理事長 緒方清美 ・ CPDI（コミュニケーションプログラムデザイン研究所）代表 三角幸三
開催方法	Z o o mミーティングを使用したオンライン開催
内 容	勉強会（テーマ：ファシリテーション、プレゼン、エンタテイメント等）、実践交流会（学習成果活用、学習相談、交流） その他関連事業 等
開催日時	毎月 1 回程度、19：30 から 2 時間程度（変更あり）
開催実績 及び 参加者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021/8.9 第 1 回オンライン公民館熊本勉強会（アイスブレイク）約 20 名</li> <li>・ 2021/8.22 くるめオンライン公民館（参加）約 50 名</li> <li>・ 2021/8.23 第 2 回オンライン公民館熊本勉強会（親の学びプログラム）約 20 名</li> <li>・ 2021/8.29 オンライン公民館ジャパン（参加・視察）約 50 名</li> <li>・ 2021/9/4 第 3 回オンライン公民館熊本勉強会（地域学校協働プログラム）約 20 名</li> <li>・ 2021/9/9、26 くるめオンライン公民館（視察）約 30 名</li> <li>・ 2021/10.26 オンライン公民館ジャパン（出演：アイスブレイク 3）約 50 名</li> <li>・ 2022/1.30 オンライン公民館ジャパン（出演：親の学びプログラム）約 50 名</li> <li>・ 2022/3.22 第 4 回オンライン公民館熊本勉強会</li> </ul>
今後の 開催予定	<p>月 1 回毎月第 3 火曜日 19:30～21:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2022/4.19 オンライン公民館熊本勉強会（ファシリテーションサークル）</li> <li>・ 2022/5.24 オンライン公民館熊本勉強会（プレゼンサークル）</li> <li>・ 2022/5.29 オンライン公民館ジャパン参加出演</li> <li>・ 2022/6.21 オンライン公民館熊本勉強会（エンタテイメントサークル）</li> <li>・ 2022/7.19 オンライン公民館熊本勉強会（ファシリテーションサークル）</li> </ul> <p>実践交流会（土曜日 10:00～12:00）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2022/7.9 実践※オンラインファシリテーション</li> <li>・ 2022/9.11 実践※オンラインファシリテーション</li> <li>・ 2022/10.22 実践※オンラインファシリテーション</li> <li>・ 2022/11.9 実践※オンラインファシリテーション</li> </ul>
参加費	無料（各自通信料のみ） ※通信に必要な機器等は、CPDI とマスターズのものを使用 ※予算・経費は基本的にはボランティアで運営

参加方法	<p>① メールでの申し込み E-Mail : its186@yahoo. co. jp(マスターズ) 又は sumisu434@gmail. com (CPDI)</p> <p>② オンライン公民館熊本の Facebook からの申し込み ・後日運営者よりミーティング I D とパスコードを受け取り参加</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加講師のスキルアップ ・生涯学習成果活用機会の提供</li> <li>・デジタルディバイドの解消 ( I C T 機器の使用の入門から活用まで)</li> <li>・地域を超えたつながりづくり 等</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブ会議システム ( Z o o m ) のライセンスを持たない自治体にはオンライン公民館熊本で対応できるが、WI-FI 環境や使用不可の自治体等</li> <li>・オンライン研修での人員確保 (メイン講師・サブ講師・テクニカル)</li> <li>・日程調整 等</li> </ul>

この調査は、県内の生涯学習講座の現状等を調査し、生涯学習振興を図るための資料とすることを目的としています。御多用の折とは存じますが、調査の趣旨を御理解の上、御協力いただきますようお願い申し上げます。なお、調査結果は、「調査研究事業報告書」としてまとめ、公表いたします。

○記入について

- ・ 選択式の質問は、該当する選択肢のセルに○印をつけてください。
- ・ 記述式の質問は、該当があれば内容を記述ください。

○提出について

御記入いただきました調査票は、令和3年(2021年)12月17日(金)までにメールにて下記に御提出ください。

〔提出先〕 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課(担当:平川) メール:hirakawa-t-dr@pref.kumamoto.lg.jp

市町村名			所属		
記入者	職		名前		
連絡先	電話番号		メールアドレス		

本年度の主催講座・講演会について

問1 本年度、貴市町村の教育委員会(公民館等も含む)主催で、生涯学習に関する講座や講演会を実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定) → 問2へ  
 イ 実施していない(予定していない) → 理由:  
 → 問3へ(3ページへ)

問2 問1で「ア 実施した(する予定)」と回答した市町村にお尋ねします。

(1) 本年度実施した(予定)講座や講演会の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕

- ア 健康
- イ 家庭・家族(子育て・家庭教育)
- ウ 環境/人口・食糧/資源・エネルギー
- エ 高齢化社会
- オ 生命
- カ 豊かな人間性
- キ 消費者問題
- ク 地域の連帯/まちづくり
- ケ 男女共同参画型社会
- コ 科学技術
- サ 情報の活用
- シ 国際理解/国際貢献・開発援助
- ス 防犯・防災
- セ 食育
- ソ 法教育
- タ 経済
- チ 起業
- ツ 人権
- テ 職業上必要な知識・技能
- ト 個人のキャリア開発
- ナ ボランティア活動の推進
- ニ 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動、スポーツ、料理、創作活動 など)
- ヌ 教養的なもの(文学、歴史、語学、科学 など)
- ネ その他

(2) (1)の講座等の合計実施回数を下から選んでください。(予定も含む)

- ア 1~5回
- イ 6~10回
- ウ 11~20回
- エ 21~30回
- オ 31回以上

(3) (1)の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。

- ア すべて1回ごとの単発の講座や講演会である。  
 イ 連続した講座や講演会もある。  
    (「連続した」とは、1つのテーマで異なる内容の講座を複数回実施すること)

(4) (1)の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕

- ア 地域の大きな課題だから  
 イ これまで継続して実施しているから  
 ウ 住民のニーズが高いから  
 エ 他の市町村でも実施しているところが多いから  
 オ 他部局や関係団体等との連携が可能だから  
 カ 講師選定が容易だから  
 キ 人が集まりやすいから  
 ク その他

(5) (1)の講座等を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関(構成員を含む)がありますか。

- ア ある  
    連携・協力した個人・機関を下から選んでください。〔複数回答可〕  
 ア 他市町村教育委員会(公民館等を含む)  
 イ 首長部局  
 ウ 学校教育関係機関  
 エ 大学等高等教育関係機関  
 オ 社会教育関係団体  
 カ NPO法人他、民間団体  
 キ 民間企業  
 ク (講座受講生などの)一般住民  
 ケ その他

イ ない → 問2(7)へ

(6) (5)の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕

- ア 企画時の相談、情報提供  
 イ 講師派遣等の人的支援  
 ウ 施設設備、機材教材等の提供  
 エ 参加者の募集等の広報面での補助・分担  
 オ 事業の成果を広めるための連携・協力  
 カ 経費面での補助・分担  
 キ 当日の運営面での作業分担、協力  
 ク その他

(7) (1)の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕

- ア 講義・講演会形式  
 イ ワークショップ  
 ウ フォーラム・シンポジウム  
 エ 現地学習  
 オ 体験活動  
 カ 個別相談  
 キ インターネットにおける一方向の配信(リアルタイム・オンデマンド)  
 ク インターネットにおける双方向の配信  
 ケ その他

(8) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕

- ア チラシ、ポスター配布  
 イ 関係機関・団体への直接依頼(チラシの送付)  
 ウ 回覧板での通知文回覧  
 エ ホームページ掲載  
 オ 広報誌掲載  
 カ 広報誌以外の生涯学習に関する情報誌の発行  
 キ SNSへの掲載  
 ク 地域の無線利用  
 ケ その他



(9) 講座評価をどのように行っていますか。〔複数回答可〕

- ア 参加者に対するアンケート調査  
 イ 担当者等による評価  
 ウ 外部委員による評価  
 エ 講師による評価  
 オ その他   
 カ 実施していない

(10) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕

- ア 生涯学習関係課職員や公民館職員  
 イ 他部局の職員  
 ウ 地域住民  
 エ 県や他市町村からの派遣  
 オ 大学・研究機関からの派遣  
 カ 民間業者を介して依頼  
 キ その他

(11) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕

- ア インターネット情報  
 イ 住民(受講参加対象者)の要望  
 ウ 他市町村に聞く  
 エ 所属内で検討する  
 オ リストを作成している  
 カ 講座内容に関連した他部局や団体等に聞く  
 キ 講師情報の提供を行っている機関等に聞く  
 ク 例年同じ人に依頼  
 ケ その他

(12) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕

- ア 駐車場の確保  
 イ 送迎バス等の運行  
 ウ 託児の実施  
 エ 手話通訳、要約筆記  
 オ 音声ガイダンス  
 カ スロープ、多目的トイレ等の設置  
 キ 休日や夜間の開催  
 ク インターネットにおける一方向の配信(リアルタイム・オンデマンド)  
 ケ インターネットにおける双方向の配信  
 コ その他

### 学習成果活用を目的とした事業について

問3 学習成果活用を視野に入れた講座(人材育成や仲間づくり、人材活用等)を実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定)

(講座名)	(内容)
<input type="text"/>	<input type="text"/>

- イ 実施していない(予定していない)

### 子供を対象とした事業について

問4 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定)

(事業名)	(内容)
<input type="text"/>	<input type="text"/>

- イ 実施していない(予定していない)

### 住民への提供が必要だと考えられる事業について

問5 今後、住民への提供が必要だと考えられる事業の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕

- ア 健康
- イ 家庭・家族(子育て・家庭教育)
- ウ 環境／人口・食糧／資源・エネルギー
- エ 高齢化社会
- オ 生命
- カ 豊かな人間性
- キ 消費者問題
- ク 地域の連帯／まちづくり
- ケ 男女共同参画型社会
- コ 科学技術
- サ 情報の活用
- シ 国際理解／国際貢献・開発援助
- ス 防犯・防災
- セ 食育
- ソ 法教育
- タ 経済
- チ 起業
- ツ 人権
- テ 職業上必要な知識・技能
- ト 個人のキャリア開発
- ナ ボランティア活動の推進
- ニ 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動、スポーツ、料理、創作活動 など)
- ヌ 教養的なもの(文学、歴史、語学、科学 など)
- ネ その他

### 生涯学習推進上の課題や悩み等について

問6 生涯学習を推進する上での課題や悩みがありますか。

- ア ある → 問7へ
- イ ない → 問8へ

問7 問6で「ある」と答えた方にお聞きします。課題や悩みの内容をお教えてください。〔複数回答可〕

- ア 住民のニーズの把握が難しい
- イ 講座企画が難しい
- ウ 人が集まらない
- エ 受講生が固定化している・新規受講生の獲得が難しい
- オ 講師選定が難しい
- カ 首長部局や関係機関との連携が難しい
- キ 講座等で学習したことを活動につなげることが難しい
- ク 予算が限られている
- ケ 職員研修の機会が少ない
- コ 職員数が少ない
- サ 研修等に関する住民からの相談や対応が難しい
- シ 住民同士のつながりづくりが難しい
- ス 施設の老朽化が進んでいる
- セ その他

### 事業の見直し等について

問8 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、事業の開催や運営方法等で、工夫や新たな取組を実施しましたか。

- ア 実施した(実施する予定)  
(具体的に)
- イ 実施していない(実施する予定はない)  
(理由)

**その他について**

問9 (1) 社会教育指導員に対する研修を実施していますか。(社会教育指導員が配置されていない市町村は「イ 実施していない」を選択してください)

- ア 実施している(実施予定) → 問9(2)、(3)へ
- イ 実施していない → 終了

(2) (1)の研修は、年間、何回実施していますか。数字を入力してください。

回

(3) (1)の内容を具体的に御記入ください。

発 行 者：熊本県  
所 属：熊本県教育庁市町村教育局  
社会教育課  
発行年度：令和3年度(2021年度)